

今週の Point

国内株式市場

米アップルイベントとファナック決算でのアク抜け期待

今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

UKC ホルディングス【東証1部 3156】ほか

テーマ別分析

主要企業のアナリストコンセンサス数値

話題のレポート

株価上昇要件の分散を意識

スクリーニング分析

米アップルの新製品発表に注目

電子書籍関連は久しぶりにテーマ物色も

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	UKC ホールディングス 〈3156〉 東証1部	9	
			クスリのアオキ 〈3398〉 東証1部	10	
			日本電気硝子 〈5214〉 東証1部	11	
			メディアフラッグ 〈6067〉 東証マザーズ	12	
			エイベックス・グループ・ホールディングス 〈7860〉 東証1部	13	
			東宝不動産 〈8833〉 東証1部	14	
			フジヤスコホレーション 〈8907〉 東証1部	15	
			エムティーアイ 〈9438〉 JASDAQ	16	
			読者の気になる銘柄	日本電気 〈6701〉 東証1部	17
				ソフトバンク 〈9984〉 東証1部	17
			テクニカル妙味銘柄	大黒天物産 〈2791〉 東証一部	18
				J-POWER 〈9513〉 東証1部	18
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19	
		スクリーニング分析		20	
		先週の話題レポート		21	
		信用需給動向		22	
5	連載コラム	ゴルフと相場		23	

米アップルイベントとファナック決算でのアク抜け期待

■日経平均は予想外の切り返しで3週間ぶり水準に

先週の日経平均は予想外の大幅上昇に。週初こそ世界経済の不透明感、ギリシャとトロイカとの協議の行方、12日の米金融決算を受けた米国市場の動向、そして、ソフトバンク<9984>とファーストリテイリング<9983>の弱い値動きなどを背景に、日経平均は一時8488.14円と7月26日以来の8500円割れの局面があった。

しかし、その後は急速な反転をみせ、週末には約3週間ぶりに9000円を回復。ソフトバンクは、米スプリント ネットワーク買収について、新株を発行しないと表明したことを受け、買い戻しが強まった。ソフトバンクの買収に伴い、為替市場で円安・ドル高に振れたことも買い材料視された。

そのほか、予想を上回る米住宅着工件数、ゴールドマン・サックスの決算などを好感した米国市場の上昇、スペインの支援要請をめぐる報道などを手掛かりとした欧州株の上昇など、外部環境の改善が好感された。さらに、中国の7-9月期国内総生産(GDP)の結果を受けて中国の景気底入れ期待が高まると、コマツ<6301>、ファナック<6954>など中国関連への見直しも強まった。

前週の弱い値動きによって需給悪化が警戒されたが、ソフトバンクの切り返しが安心感につながったほか、米中の景気不安が後退し、欧州懸念が和らぐなど、外部環境の改善がリスクオンに向かわせたようである。また、日銀が30日に開く金融政策決定会合で追加金融緩和を協議すると報じられたことも下支えとなった。

■日米決算発表が本格化、テクニカル好転も慎重姿勢は崩せず

先週の大幅上昇により、テクニカル面では一目均衡表の転換線、雲下限、転換線、雲上限を次々と突破し、パラボリック、MACDなども陽転シグナルを発生させた。トレンドとしては、5月急落以降の上値抵抗となる9200円レベルが意識されてくる。一方、今週は日本でも決算が本格化するため、日米ともに決算要因に振られやすくなる。週末20日の米国市場ではハイテク企業の相次ぐさえない決算により、NYダウは200ドル超の下げとなった。テクニカルは

好転しつつも、一方向のトレンド形成は厳しそうだ。決算を受けた動向次第では、往って来い、の展開も警戒されてくる。

■アップルイベント、ファナック決算に関心

今週は米アップルが23日に特別イベントを開催し、小型タブレット「iPad mini」の発表が予想されている。9月の米小売売上高は、電子機器が増加分の大半を占めるなど、「iPhone5」が好調だったことを背景に、3ヶ月連続で拡大。「iPad mini」はクリスマス商戦への起爆剤となる可能性もあり、イベントへの関心が集まることになろう。また、アップルは25日に決算発表を予定していることもあり、電子部品などアップル関連銘柄への物色材料になりそう。

国内では24日にJFEHD<5411>、KDDI<9433>、任天堂<7974>、25日にファナック、キヤノン<7751>、アドバンテスト<6857>、信越化学<4063>などの決算が予定されている。為替の円高や中国の景気減速の影響などから自動車や電気機器、機械、鉄鋼、化学セクターに対する下方修正への懸念は強い。決算内容がアク抜け材料となれば、先週みせたリバウンド相場の持続が期待されてくる。まずは、日経平均に対するインパクトが大きい、ファナック辺りがアク抜けをみせてくるようだと、“下方修正=アク抜け”への心理状態に向かわせよう。

また、先週の上昇については外部環境の改善に伴う買い戻しが中心とみられる。決算が本格化するなか、国内外の機関投資家は積極的には動かないであろう。ただし、チャイナ・リスクへの警戒は依然として根強いものの、中国の景気底入れ期待から、景気敏感株への買い戻しがみられた。中国の底入れにより、リスクヘッジで売っていた日本株へはヘッジを減らす動きも意識される。

そのほか、30日に日銀が追加緩和に踏み切る場合、国債など資産買い入れ基金の増額のほか、買い入れる国債の年限延長、上場投資信託(ETF)などの購入枠拡大が期待されている。不動産など緩和メリットセクターへの先回りの買いはないにせよ、ショートポジションはカバーしておきたいところであろう。

目先的にはリバウンド一服へ、決算発表など見極めたい

■リバウンド達成感で戻り売り優勢に

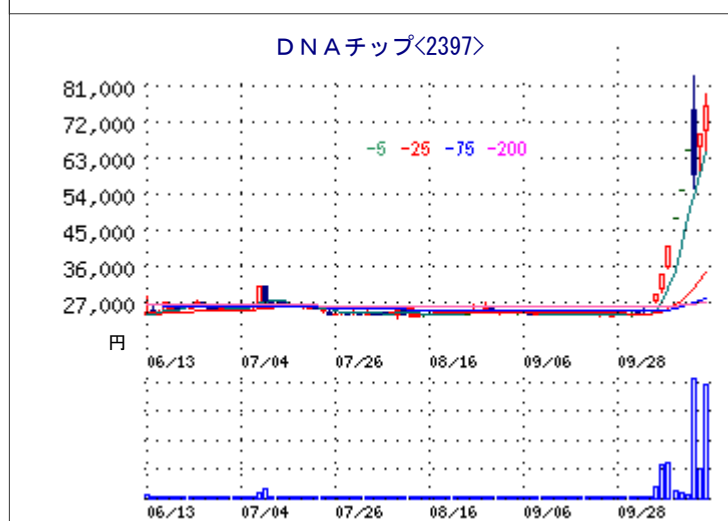
今週の新興市場は、先週末の米国株の大幅安をきっかけに、戻り売りが優勢の展開になると想定する。マザーズ指数に関しては、7月の急落前の水準までのリバウンドを果たし、一旦達成感が生じる水準とも考えられよう。また、米グーグルの株安は主力のネット関連株などに対する買い手控えにもつながっていく公算。米フェイスブックの決算次第では、一段と警戒感が強まる可能性も残ろう。バイオ関連株に関しても、先週も大幅に反落する銘柄が見受けられるなど、物色の一巡感が強まる恐れ。

一方、先週もマザーズ市場の売買代金は2日間で200億円を突破しており、売買ボリュームの盛り上がりが続いている。懸念されたソフトバンク<9984>の急落に伴う換金売り圧力なども、それほど強まる状況にはならなかった。物色意欲の強さを背景に、好業績発表など一部の銘柄では値幅取りの動きが引き続き活発になると見られるほか、株価の調整場面では押し目買いの動きも強まりやすく、反発に転じるタイミングも早まると判断したい。

■サイバーエージの決算発表など注目

個別では、25日に決算発表予定のサイバーエージ<4751>などに関心。直近ではCSが投資判断を格下げしているなど、警戒感が先行しやすいとみられる。営業利益の市場コンセンサスでは、前9月期実績が180億円強と会社計画を10億円超上回る水準、今9月期は200億円超のレベルとなっているが、CSでは今期横ばいを予想していた。ほか、今週は沖縄セルラー<9436>、ニューフレア<6256>、DNAチップ<2397>やカイノス<4556>などバイオ関連の一角が決算発表を予定している。また、東証ではハイテク株の決算発表が本格化、新興市場のハイテク銘柄には株価の連動性が強まりやすいだろう。

根強い追加緩和策などへの期待から不動産関連株などには引き続き注目度を高めたい。JCOM<4817>のM&A観測報道を受けて、通信関連セクターに再編期待が高まるかも注目。トレンドーズ<6069>の上値追い継続なら、直近IPO銘柄人気も続く可能性。



米国株式市場

7-9 月期決算と FOMC に注目

■先週の動き

9月中国貿易収支が改善を示したことや、9月小売売上高が予想を上回ったことが好感され、上昇して始まった。銀行大手シティグループの好決算や、ソフトバンクによるプリント買収が合意に達したことも好感された。9月鉱工業生産が予想を上回ったほか、主要企業の好決算が相次いでいることから、週半ばにかけても堅調推移となった。9月住宅着工件数が予想を大幅に上回ったことで、住宅メーカーや住宅金融にも幅広く買いが広がった。週後半になると、10月景気先行指数が予想を上回ったことが好感されたが、中国の7-9月期GDPが7四半期連続で鈍化となったほか、検索大手グーグルの決算が誤って取引時間中に公開されるアクシデントがあり、相場は反落。特に、ハイテク大手企業に冴えない決算が相次いだことが嫌気され、週末にかけて下落する展開となった。19日はブラックマンデーから25周年となった心理的な要因も手伝い、単日としては約4ヶ月ぶりの下落幅を記録した。結局、週を通じてナスダック総合指数が下落する一方、ダウ平均やS&P500指数は僅かに上昇。

個別では、製薬大手のジョンソン&ジョンソンや投資銀行のゴールドマン・サックスが好決算を発表して上昇。シティグループは決算及びパండిットCEOの辞任を発表して堅調推移となった。通信大手のベライゾンや保険のトラベラーズも決算が好感されて上昇。石油のマーフィーオイルは精製部門などのスピノフ（分離）計画を発表して急騰となった。

一方で、マイクロソフトやグーグル、IBM、インテル、アドバンスト・マイクロ・デバイセズなど、ハイテク大手各社は決算が予想を下回ったり、慎重な業績見通しを示したことで軟調推移。

■今週の見通し

引き続き7-9月期決算発表が焦点となる。ハイテク大手はPC需要の鈍化などを背景に、冴えない決算発表が相次いでいる。今週は、半導体のテキサ

ス・インスツルメンツ(22日)やポータルサイトのヤフー(22日)、交流サイトのフェイスブック(23日)、仮想化ソフトのVMウェア(23日)、携帯端末メーカーのアップル(25日)、オンラン小売最大手アマゾン(25日)などの決算発表が予定されている。

最も注目されるのは時価総額が世界最大のアップルの決算だ。アップルの業績の大きな割合を占めるスマートフォン「iPhone」の販売台数は、2500~3000万台となることが予想されているが、「iPhone 5」の製造プロセスが複雑で供給が間に合っていないとの思惑も広がっている。アップルは23日に製品発表会も予定しており、小型のタブレット端末「iPad mini」を発表すると予想されている。このイベントで「iPhone」の販売台数などを事前に公表する可能性も考えられる。PC関連各社は苦戦が続いているが、マイクロソフトが26日から基本ソフト「Windows 8」とタブレット端末「サーフェス」の発売を開始する。買い控えなどの反動による需要回復を期待する向きが多い。ハイテク以外では建設機械のキャタピラー(22日)、化学のスリーエム(23日)、通信のAT&T(24日)、航空機のボーイング(24日)、家庭用品のP&G(25日)、などの決算発表が予定されている。

経済指標関連では、9月耐久財受注(25日)、中古住宅販売仮契約(25日)、7-9月期GDP(26日)、10月ミシガン大学消費者信頼感指数(26日)などの発表が予定されている。23~24日にはFOMC(連邦公開市場委員会)が予定されている。前回、追加量的緩和第3弾を発表したばかりであるため、今回金利や政策の変更は予想されていない。緩和策は雇用の回復が確認できるまで継続するとしており、声明文などで連銀が雇用情勢にどのような認識を示すかが注目されそう。

22日には最後(3回目)となる大統領候補討論会が予定されている。世論調査などでは依然としてオバマ大統領が優勢だが、ロムニー共和党候補との支持率の差は縮小傾向にある。選挙結果が実質増税と緊縮財政が同時に訪れる「財政の崖」の行方を左右することになるため、投資家の多くも討論会に高い関心を寄せている。



為替市場

米ドル・円 予想レンジ

77.00 円 ~ 81.00 円

今週のドル・円は、ドル高・円安トレンドが継続していることを受けて、22日に発表される日本の9月の貿易収支、26日に発表される米国7-9月期の国内総生産(GDP)に注目する展開が予想される。

10月30日の日本銀行金融政策決定会合において、資産買入れ等基金の10兆円増額、あるいは20兆円増額の期待感が高まっていることで、ドル・円は底堅い展開が予想される。日本の政局混迷による特例公債法案の成立の遅延も円売り要因となるため、要注意か。

【日本の9月の貿易収支】(22日)

日本の9月の貿易赤字は、5091億円と予想されており、最小予想が-750億円、最大予想が-1兆円程度の貿易赤字となっている。ドル高・円安トレンドが継続していることで、円安材料となる貿易赤字が拡大した場合は、ドル買いに拍車がかかる可能性に警戒する展開となる。

【連邦公開市場委員会(FOMC)】(23-24日)

連邦公開市場委員会(FOMC)は、11月6日の米国大統領選挙を控えており、9月の量的緩和第3弾(QE3)の影響を見極める会合となり、現状の金融政策の維持が予想されている。

【米国7-9月期国内総生産(GDP)】(26日)

米国の7-9月期国内総生産(GDP)は、前期比年率+1.8%と、4-6月期の+1.3%から改善すると予想されている。ドル高・円安トレンドが継続していることで、米国10年債利回りの上昇に繋がる予想を上回る数字が発表された場合、ドル買いに拍車がかかる可能性に警戒する展開となる。予想を下回った場合は、米国10年債利回りの低下により、ドル・円は上げ渋る展開が予想される。

債券市場

債券先物予想レンジ

143.70 円 ~ 144.20 円

長期国債利回り予想レンジ

0.750 % ~ 0.810 %

■先週の動き

債券先物はやや伸び悩んだ。15日に144円32銭まで買われたが、スペインの債務問題に対する懸念がさらに和らいだこと、米国の景況感の改善、ドル・円相場がドル高方向に振れたことから、18日に143円79銭まで下げる場面もあった。

しかしながら、今月30日の日銀金融政策決定会合で追加の金融緩和策が導入されるとの見方が広がり、債券先物の下げは週末前の19日には一服となった。スペインの債務問題に対する懸念は、一段と後退しており、投資家のリスク志向は高まっている。ただし、日本経済が強固でないにもかかわらず円高が続いていることから、日銀による追加金融緩和への市場の期待は高まっている。

■今週の見通し

今週は、23日-24日に開かれる米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合結果と為替相場の動向を見極める展開となりそうだ。今回のFOMC会合では、量的緩和策第三弾の有効性について再度議論される可能性がある。量的緩和策によって、米国の失業率が一段と低下するかどうか(7%程度まで)を判断することになりそうだ。

円相場が円安方向に振れた場合、債券先物の上値は再び重くなる可能性がある。ただし、現在の円安は日銀の追加金融緩和を見込んだ動きとの指摘もあり、米長期債利回りが上げ渋った場合、債券先物は143円台後半で下げ渋る可能性もある。なお、ドル・円相場が予想に反して円高方向に振れた場合、債券先物は一段高となり、現物債では5年債、10年債の気配が相対的に強くなる可能性がある。

国内外で本格化する決算発表が引き続き焦点に

先週の日経平均は週を通して上昇、週間では5.5%の上昇となり、9月25日以来の9000円台を回復している。海外株高や為替の円安など外部環境の一段の改善が背景となっており、主に景気敏感株や輸出関連株を中心に買い戻しの動きが優勢となった。全セクターが上昇となったが、ハイテクや自動車など円安メリットセクターの上昇率が高く、中国関連銘柄の強い動きが目立つ中、機械セクターも買われた。パルプ・紙セクターも出遅れ業種としてリターンリバーサルの流れに乗る。

注目された米国企業の決算だが、インテルやIBM、マイクロソフトなど、一般的にハイテク株は冴えない決算が目立ったものの、東京市場ではネガティブな反応が限定的にとどまった。国内では業績修正や業績観測報道などが多くなったが、総じて業績下振れも悪材料出尽くし感と捉えられるものが多くなっている。とりわけ、コマツなどは中国関連の先導役となっている。ほか、下方修正の宇部興産や安川電機、東京製鐵などもアク抜け感が先行する展開に。

個別ではソフトバンクの動向に関心が向かう。週初こそ短期資金の処分売りに下げ幅を広げたが、買収の正式発表後は買い戻しが急がれる展開。フジミインコやNECは好決算・好業績観測がストレートに買い材料に。週末は米グーグルの株安でネット関連の一角が軟化。

想定以上に底堅い動きが続いている東京市場だが、週末の米国株安をきっかけに、一旦は反発トレンドも一服する見通し。今週も米国市場では決算発表が相次ぐが、ネガティブな内容が目立つハイテク株やネット関連株の決算が多く、買い手控えムードにつながろう。東京市場でも週半ばから決算発表が本格化、目先の買い戻しの動きにも一巡感が見込まれる中で、決算後の株価の反応を見極めたいとする動きは強まろう。

今週は、23日に花王、24日にJFE、ヤフー、日本電産、KDDI、任天堂、25日に信越化学、サイバーエージェント、日立建機、アドバンテ、キヤノン、26日にNEC、ドコモ、オリックスなどが予定している。鉄鋼株や建機株など中国関連にはアク抜け期待を先行させたいが、ハイテク株などは足元での過度な安心感の反動も想定しておきたい。なお、ここまでの業績下方修正後の反応としては、スタートゥなど内需ディフェンシブ系は強いネガティブ反応、NOKなど自動車関連にもマイナス視する動きが強まった経緯。米国決算では、キャピラー、TI、デュボン、コーニング、ボーイング、フェイスブック、アップルなど、国内株への影響を与えやすい。

来週の日銀金融政策決定会合を控えて、不動産やノンバンクなど金融緩和メリット銘柄に注目。業績修正後の中国関連銘柄なども相対的に有望か。

先週動いた銘柄・セクター（東証1部・個別銘柄は他市場が優先市場のものを除く）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	上位セクター	騰落率(%)
2395	新日本科学	280	48.15	8915	タクトホーム	80,400	-13.17	パルプ・紙	9.87
7714	モリテックス	287	39.32	3606	レナウン	103	-10.43	証券業	8.42
5384	フジミインコーポ	1,472	34.80	3639	ボルテージ	947	-8.94	電気機器	8.29
6390	加藤製作所	236	30.39	6054	リブセンス	4,095	-8.90	機械	8.04
4064	日本カーバイド工業	135	26.17	2120	ネクスト	515	-6.19	輸送用機器	7.50
5017	AOC HD	281	26.01	7733	オリンパス	1,390	-6.14	ゴム製品	6.95
6844	新電元工業	189	26.00	1414	ショーボンドHD	2,462	-5.92	ガラス・土石製品	6.84
9507	四国電力	1,015	23.18	3656	KLab	542	-5.90	下位セクター	騰落率(%)
3104	富士紡HD	329	22.30	4714	リソー教育	5,870	-5.78	食料品	0.83
6480	日本トムソン	287	22.13	4569	キョーリン製薬HD	1,678	-5.73	空運業	1.28
6113	アマダ	416	21.28	1883	前田道路	939	-5.63	建設業	1.44
6996	ニチコン	596	20.89	3092	スタートゥデイ	908	-5.42	陸運業	2.03
7735	大日本スクリーン製造	471	19.85	8181	東天紅	194	-5.37	サービス業	2.07
7513	コジマ	244	19.61	3630	電算システム	1,161	-4.84	石油・石炭製品	2.14
6997	日本ケミコン	125	19.05	2371	カカコム	2,669	-4.61	医薬品	2.55

追加緩和期待が下支えも外部環境に左右される展開に

■達成感も意識されて意識は下へ

先週の日経平均は5日続伸で上昇幅は468.56円と今年最大の上昇となった。週初は、為替がやや円高に振れたことなどから、8500円を割り込む場面が見られたものの、中国の貿易統計などを受けて、過度な警戒感がやや後退。欧州市場においても、スペイン支援要請気運が日に日に高まるなか、米ムーンデイズがスペイン国債の格付けを据え置きとしたことで、為替市場ではユーロ高が進行。日銀の追加の金融緩和期待が高まったことも投資家心理の改善につながった。

とはいえ、短期的な上昇による過熱感が高まっており、「ファースト」ストキャスティクスは93%と買われ過ぎ感が強まっている。また、心理的な節目である9000円台を回復したことによる達成感も売りを誘いやすい要因に。

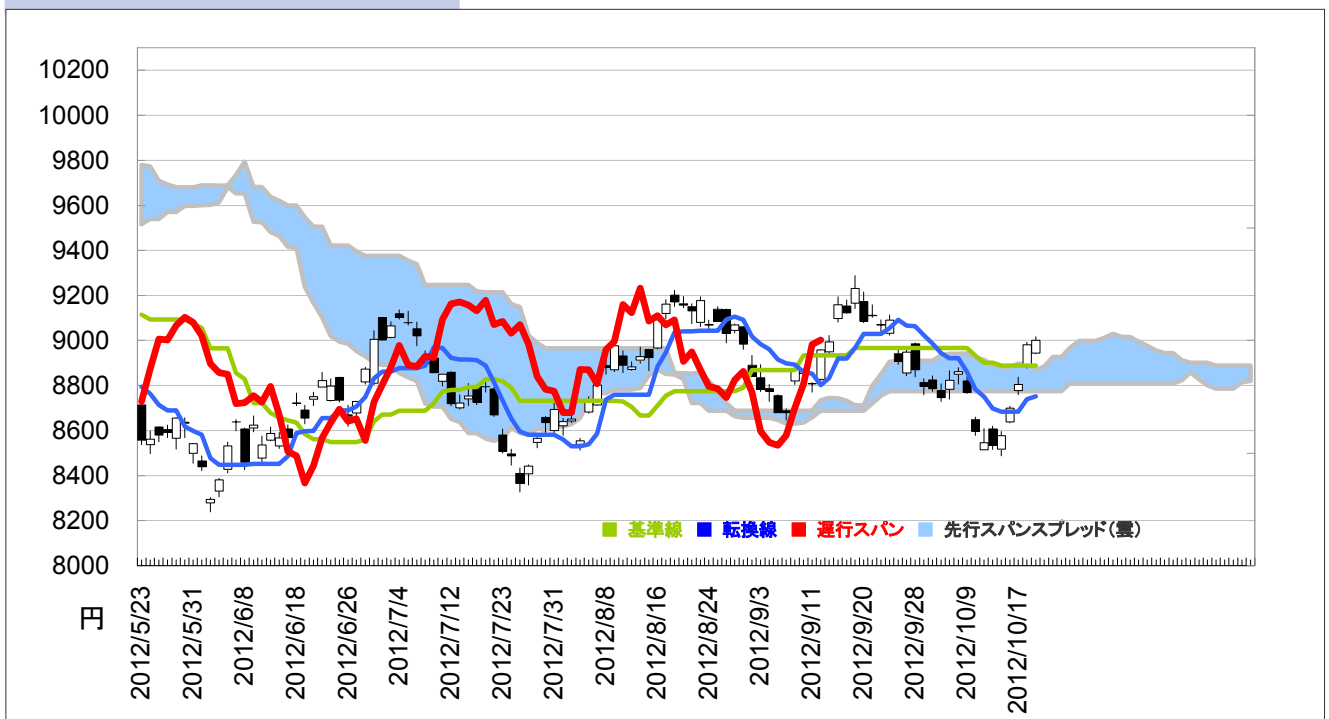
先週末の米国市場は急落となったうえ、為替市場ではユーロ・円の円安進行が一服しており、外部環境は悪化へ。日本株上昇に必要な要素が剥落したこ

とから、週初は売り優勢の展開となろう。売り一巡後に押し目を狙う動きが入るかがポイントとなるが、本格化を迎える決算発表を前に業績の下振れ懸念が意識されて買い手控えとなる可能性がある。先週は、一部の企業で業績下方修正がアク抜けと捉えられる展開があったものの、今週は地合い悪化による下値模索の厳しい展開も頭に入れておきたい。

また、日経平均は、9月高値9288円から10月安値8488円の下落幅(800円)の3分の2戻し9024円をほぼ達成しており、フィボナッチでも達成感が意識される状況に。

一目均衡表では、切り上がる雲上限をサポートラインとして期待したいところだが、11月中旬に雲のねじれが発生することから上昇トレンド継続は難しいか。雲下限(8775円)が意識されると、25日線(8885円)、75日線(8857円)を割り込むこととなることから、意識は下に向かいやすい。30日に開催される日銀会合での金融緩和期待は一定の下支えとして期待できるが、市場ではある程度織り込まれていることで「やや弱気」とする。

一目均衡表 (日経平均)



米アップルイベントの波及効果に期待

■アップル新製品発表が刺激材料に

エレクトロニクス商社。今週は米アップルが23日に特別イベントを開催、小型タブレット「iPad mini」の発表が予想されている。スマートフォンやタブレット関連銘柄への波及が期待されるほか、調整一巡感から反転をみせているテクニカル面でも注目。米国では「iPhone5」の好調が9月の小売売上高の3ヶ月連続拡大をけん引したこともあり、クリスマス商戦を控えた新製品発表への注目は高いだろう。電子部品株などは足元で調整をみせていることもあり、新製品発表が刺激材料になる展開に期待したい。

■直近の下落幅をリプライスした1967円

スマートフォン向け販売の好調を受けて、9月には通期計画を上方修正している。これを好感して上昇基調

売買単位	100 株
10/19 終値	1585 円
目標株価	1967 円
業種	卸売

が強まり、10月4日には1670円まで急伸。その後は利益確定からの調整をみせているが、25日線レベルをサポートに反転。信用買い残高は足元で積み上がっているが、シコリを残す状況ではない。アップルイベントを手掛かりに再動意の展開を想定し、直近の下落幅をリプライスした1967円をターゲットとする。

★リスク要因

アップルイベント通過での材料出尽くし感。



(百万円)

連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
10.03	215,162	-	2,734	2,259	-	6,094	486.55
11.03	303,585	41.1	4,431	3,861	70.9	2,314	155.20
12.03	257,088	-15.3	5,389	5,008	29.7	2,722	173.43
13.03予	285,000	10.9	8,000	7,200	43.8	3,900	248.41

クスリのアオキ 〈3398〉 東証1部

株式会社フィスコ

月次好調、好需給・好業績の内需成長株として注目

■上半期売上高は計画上振れの公算

北陸地盤で調剤薬局併設型ドラッグストアなどを展開。今期の月次動向(全店売上高)は、6月が22.4%増、7月が14.3%増、8月が25.1%増、9月が21.7%増となり、ここまでの合計は20.9%増。上半期計画の売上高は17.9%増が見込まれており、上半期売上高は計画上振れで着地する可能性が高い。なかでも、好採算の調剤薬局の好調さが目立つこともあり、利益面も高成長になっている点を評価。好需給・好業績の内需成長株として同社を注目したい。

■積極展開が奏功、優位性も意識で大台を目指す

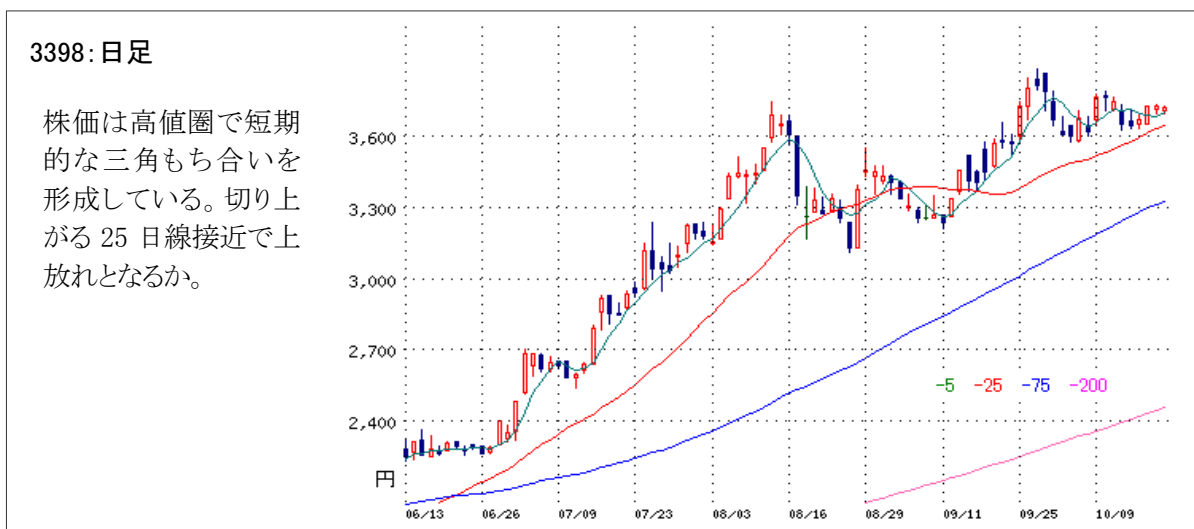
また、9月の厳しい残暑の局面では、飲料やアイスクリーム、ビール系商品などが売上げを伸ばしたもよう。薬以外の分野が競争激化のドラッグストア業界において、

売買単位	100 株
10/19 終値	3720 円
目標株価	4000 円
業種	小売

同業他社との差別化につながるが、先月には生鮮食料品の販売事業に参入とも伝わっている。積極展開が奏功するなか、同業他社に対する同社の優位性も意識されやすい。地合い改善で売り込まれた銘柄に関心が向かっているが、25日線をサポートに上昇基調継続を想定し、大台の4000円を目標株価とする。

★リスク要因

地合い改善を受けた景気敏感株への資金シフトの強まり。



(百万円)

単独	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
08.05	44,452	15.1	1,492	1,585	7.0	883	113.85
09.05	49,421	11.2	1,723	1,791	13.0	971	125.21
10.05	53,994	9.3	1,578	1,654	-7.7	894	115.25
11.05	64,690	19.8	2,118	2,225	34.5	1,037	133.66
12.05	76,135	17.7	3,480	3,564	60.2	2,047	263.73
13.05 予	87,590	15.0	4,109	4,201	17.9	2,564	329.85

日本電気硝子 <5214> 東証1部

株式会社フィスコ

決算発表が見直しの動きを強めるきっかけに

■24日には決算発表を予定

今週24日に上半期の決算発表を予定。見直しの動きが強まるきっかけになると考える。会社側では9月24日に上半期の業績見込みを発表、これ以降、大和やシティで投資判断格上げの動きが観測され、GSでは短期的な資金の逃げ場になるとも指摘へ。決算発表では、10-12月期の良好な見通しが示されると見られ、更なる株価の支援材料となる可能性が高い。同社の場合、引き続き、来期、再来期と業績の落ち込みを想定する向きが依然多い。ただ、シティでは、もともと来期43%減益、再来期赤字転落を予想していたが、今回の修正で、15.3期営業損益は15億円の赤字から170億円の黒字に上方修正、過度な警戒感の後退する状況となりつつある。

売買単位	1000 株
10/19 終値	484 円
目標株価	520 円
業種	ガラス土石

■0.5倍のPBR水準には割安感が大

先行き赤字転落のリスクが解消されるならば、0.5倍のPBR水準には割安感が強いと判断される。また、昨年来高値から直近安値までに対する戻りは、旭硝子の22%に対して、同社は13%と出遅れ感も強い。信用倍率も低下傾向と需給面の改善も見られ、短期的に6月25日の戻り高値520円を目標株価とする。

★リスク要因

会社側の保守的なガイダンス。



(百万円)

連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
08.03	368,267	9.5	100,882	96,942	19.1	50,668	105.29
09.03	335,662	-8.9	76,416	64,319	-33.7	21,831	43.89
10.03	332,387	-1.0	98,426	91,419	42.1	54,926	110.41
11.03	390,195	17.4	117,471	114,299	25.0	68,608	137.92
12.03	338,214	-13.3	61,638	56,855	-50.3	19,408	39.02
13.03予	-	-	-	-	-	-	-

トレンドーズの人気化が刺激材料に

■9月上場の直近 IPO 銘柄の一角として

先週末に東証マザーズに上場したトレンドーズ<6069>の人気化が、直近 IPO 銘柄(9月28日上場)の一角である同社への刺激材料となりそうだ。同社は、店舗・店頭マーケティングに特化した覆面調査事業のほか、営業アウトソーシング事業などを展開している。メディアクルーと言われる覆面調査員の増員、質の維持向上を推進しており、今後、全国各地でのサービス提供が可能となる見通し。また、飲食事業に留まらず、消費財メーカーや金融機関などからも調査依頼がきており幅広い事業体がターゲットに。

■17日の下ヒゲでボトムを打った可能性

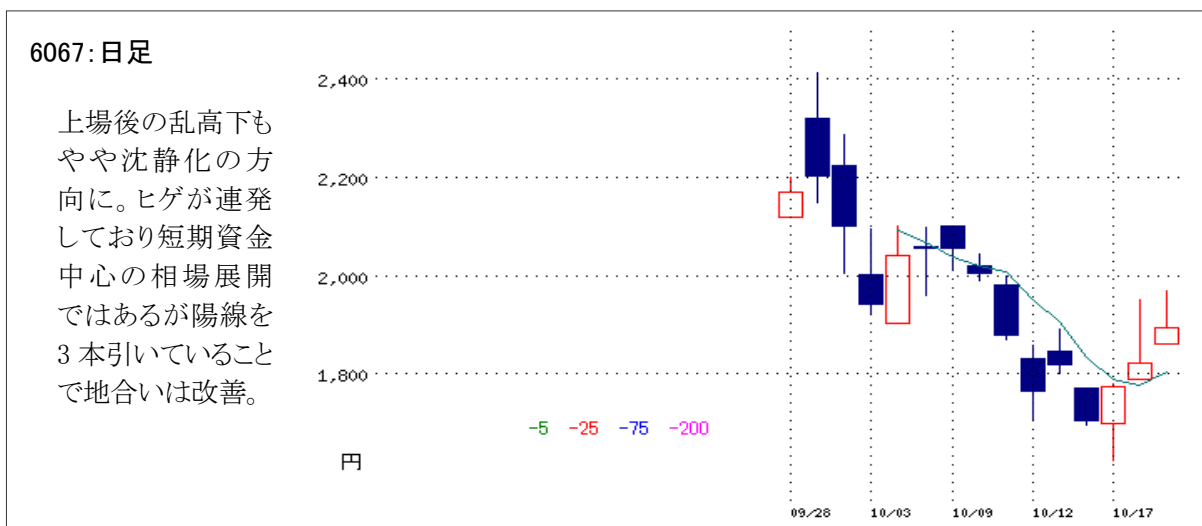
公開価格 900 円に対して初値は 2120 円。その後 2415 円まで買われたが上ヒゲを残したことで売りが膨ら

売買単位	100 株
10/19 終値	1895 円
目標株価	2110 円
業種	サービス

む展開に。ただ、17日に1625円を付けた後はリバウンド基調を強めている。上場して間もないことから、テクニカル分析は難しいが、1日の上ヒゲ同様、17日に下ヒゲを残したことで短期的なボトムを打ったとも判断できよう。高値 2415 円から安値 1625 円の下落幅(790 円)の 61.8%戻しレベルである 2110 円をターゲットに設定する。

★リスク要因

短期資金の流出入による乱高下。



(百万円)

単独	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
07.12	691	-	-42	-45	-	-47	-
08.12	1,298	87.8	7	5	-	4	3.04
09.12	1,672	28.8	81	81	1520.0	62	47.01
10.12	1,861	11.3	106	106	30.9	57	43.41
11.12	2,279	22.5	111	112	5.7	51	38.64
12.12 予	2,795	22.6	181	182	62.5	100	74.90

エイベックス・グループ・ホールディングス <7860>

東証1部

株式会社フィスコ

スマホ向け映像配信事業への期待感から見直し

■ソフトバンクと動画配信サービスを開始

音楽・映像コンテンツなどを手掛け、浜崎あゆみや安室奈美恵、EXILE などの人気アーティストを多く抱える。同社は今年9月9日、ソフトバンク<9984>とスマートフォン向け動画配信サービス「UULA」を今年12月から開始すると発表。音楽・映像コンテンツが見放題で月額490円、タイトル数は約5万タイトルを予定している。8月にリリースされていたことからサプライズ感はないが、スマホ向けの定額サービスが拡大するなか、再度注目すべき場面だろう。改正著作権法の施行により、スマホ向けサービスへの関心の高まりに加え、音楽配信の立ち直りなどにも期待したい。

■雲上限をサポートに再度年初来高値へ

第1四半期営業利益は22億6800万円(前年同期比-2.4%)で、上半期計画への進捗率は75.5%。NTTド

売買単位	100株
10/19終値	1422円
目標株価	1669円
業種	情報通信

コモ<9437>向け映像配信事業の好調継続などもあり、上半期は計画より減益率を縮小して着地する可能性。今期純利益は過去最高益を更新する見通しでもあるほか、中期的な映像配信事業の成長期待は強い。切り上がる一目均衡表の雲上限がサポートになっており、見直しの動きが強まる展開を想定、年初来高値の1669円を目標株価とする。

★リスク要因

雲上限割れや内需株の利食い圧力が強まる展開。



連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
08.03	104,639	3.0	8,510	7,066	-9.6	909	21.17
09.03	117,819	12.6	6,480	4,729	-33.1	-905	-
10.03	118,142	0.3	5,566	4,456	-5.8	975	22.72
11.03	111,561	-5.6	11,343	9,990	124.2	5,308	123.60
12.03	121,027	8.5	12,263	10,531	5.4	4,934	115.06
13.03予	131,000	8.2	12,700	12,300	16.8	7,000	163.95

追加の金融緩和期待を背景に出遅れ修正の動きへ

■出遅れ感の強い不動産株として

先週末の米国株急落やユーロ・円の円安進行一服などを受けて、上昇基調を強めていた日経平均はいったん下への動きを強めそうな状況に。そのような相場環境下、30日の日銀金融政策決定会合での追加の金融緩和実施観測を下支えに、不動産関連銘柄の一角は強い動きが続くと想定。とりわけ、住友不動<8830>や三菱地所<8802>など年初来高値を更新している銘柄よりも、出遅れ感の強い同社の上昇率が大きいと想定。

■下値をじりじりと切り上げる展開に

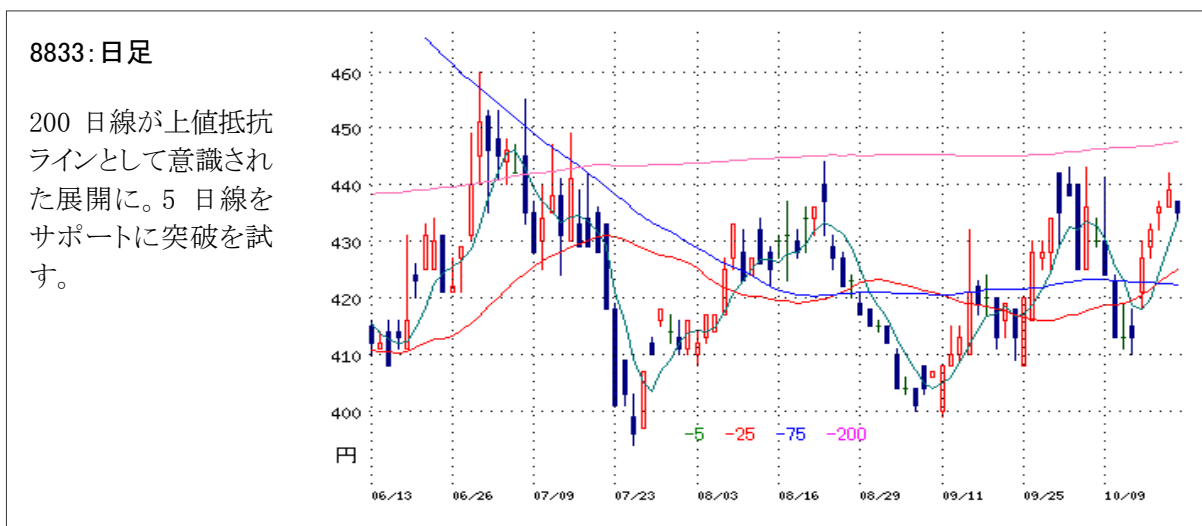
6月4日の安値393円を付けた後はじりじりと下値を切り上げており、6月29日の高値460円を起点とした上値抵抗ラインを突破している。週足チャートでは、52週線に頭を抑えられた格好となっているが、この水準をクリアすると上へのバイアスが強まると想定。週足の一

売買単位	100 株
10/19 終値	435 円
目標株価	466 円
業種	不動産

目均衡表では実線が切り下がることで、来週あたりには遅行スパンが好転する可能性も。基準線を突破後、雲下限を目指した上昇を期待して雲下限466円を短期的なターゲットに設定する。なお、中長期的には雲上限を上放れ年初来高値560円を意識した上昇へ。

★リスク要因

外部環境の悪化によるリスクオフの流れが強まった場合。



(百万円)

連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
08.02	30,414	11.3	2,747	2,841	23.4	1,898	34.22
09.02	27,251	-10.4	2,370	2,454	-13.6	1,353	24.39
10.02	27,980	2.7	2,754	2,870	17.0	1,516	27.33
11.02	26,679	-4.7	2,779	2,858	-0.4	1,492	26.92
12.02	25,915	-2.9	2,810	2,890	1.1	1,096	19.78
13.02 予	25,500	-1.6	2,450	2,550	-11.8	1,200	21.64

追加緩和策への発表期待で中小型不動産株として注目

■改めて不動産株に物色の矛先向かう余地

先週末には米国株が大幅安、ここまで想定以上に底堅い動きが続いていた日本株だが、短期的なトレンドの転機につながる可能性も高いだろう。とりわけ、今週からは国内でも主力株の決算発表が本格化、改めて景気敏感株や輸出関連株には業績懸念が強まる余地。こうしたなか、次回の日銀金融政策決定会合における追加緩和策実施の可能性は高まっていることで、改めて不動産関連セクターなどの金融緩和メリットセクターに関心が高まると考える。三菱地所<8802>や住友不動産<8830>など大手各社が年初来高値を更新している中、出遅れ感の強い中小型株に注目。同社も高値まで34%の上昇余地を残している。

売買単位	1株
10/19 終値	59100 円
目標株価	65700 円
業種	不動産

において 85%超の契約が完了しているようだ。当面の業績動向には安心感が強い状況とも捉えられる。7月以降のボックスを上放れてきており、目的的に追随買いが膨らむ可能性も高い。7月2日の戻り高値 65700 円を目標株価とする。

★リスク要因

輸出関連株への関心継続など物色動向。

■ボックス上放れで追随買いの期待

先週末には第2四半期の営業概況を発表している。すでに、今期に引渡しを予定している自社分譲物件に



(百万円)

連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
08.03	51,286	36.3	6,170	5,543	2.7	3,202	10,081.78
09.03	48,484	-5.5	-10,223	-11,823	-	-13,861	-
10.03	32,817	-32.3	1,410	854	-	1,240	3,931.64
11.03	8,651	-73.6	2,326	1,942	127.4	2,628	8,330.52
12.03	21,045	143.3	5,183	4,701	142.1	5,362	16,992.66
13.03 予	31,000	47.3	6,000	5,450	15.9	3,300	10,457.73

有料会員数は純増に転じ業績改善期待が高まる

■前期業績を下方修正しアク抜け感

音楽配信サイト「music.jp」、健康・美容情報サイト「ルナルナ」などのモバイルサイトを運営する。足元ではスマホの普及を背景に、フィーチャーフォン向け有料会員数の減少が続き、18日には前期営業利益を18億円から17億円へと下方修正した。ただし、業績の下振れ懸念を背景に株価は調整が続いていたためアク抜け感が先行し、週末は約7%の大幅高となった。また、9月末のスマホ向け有料会員数は313万人(6月末比84万人増)と順調に増加しているほか、全体の有料会員数もスマホ向けの大幅な伸長を追い風に813万人(同9万人増)と四半期ベースで純増に転じた点も注目されよう。

売買単位	1 株
10/19 終値	78000 円
目標株価	90000 円
業種	情報通信

スマホ向け有料会員数の増加を考慮すると保守的な印象がある。そのため、目先は悪材料出尽くし感と今期の業績改善期待を支援材料に、見直しの動きが強まる展開が期待される。先週末の大幅上昇で25日線を一気に回復し底入れ感が強まっており、26週線が位置する90000円水準へのリバウンドを予想する。

■底入れ感が強まり売られ過ぎ修正へ

会社側では今期売上高を前期比2%増の300億円、営業利益を同0.4%増の17.1億円と見込んでいるが、

★リスク要因

スマホ向け有料会員数の伸び悩み。



連結	売上高	前期比(%)	営業利益	経常利益	前期比(%)	当期利益	1株益(円)
07.09	18,520	6.2	1,123	1,029	22.7	1,053	14,490.62
08.09	21,615	16.7	1,726	1,675	62.8	563	4,086.52
09.09	25,732	19.1	2,213	2,177	30.0	1,669	12,446.91
10.09	30,836	19.8	3,131	3,132	43.9	1,824	13,630.48
11.09	32,342	4.9	3,702	3,692	17.9	1,797	13,447.41
12.09 予	29,382	-9.2	1,704	1,697	-54.0	138	1,071.02

日本電気

東証1部<6701>

日銀の追加金融緩和期待が高まり全面高となった18日の午後、同社の株価は急落。一部経済情報誌の同社に対する特集記事が売り材料視され、株価は一時25日線を割り込む大幅安となった。ただ、翌19日に、上半期営業利益が400億円程度と、前年同期比6倍になったとの業績観測が報じられたことで株価は急反発。前日の売り方による買戻しなども加わり10月高値139円に迫る大幅な上昇となった。19日の昼には会社側が上半期業績の上方修正を発表。IT投資が堅調に推移し売上高が予想を上振れたことや、ITソリューション事業や、液晶ディスプレイ関連の特許売却によるその他事業の改善などが影響したとのこと。業績改善がようやく確認できたことから株価は戻りを試す展開に。

急反落も上期業績上振れ報道で買戻し優勢へ



ソフトバンク

東証1部<9984>

15日に米プリント社の買収を正式に発表、買収金額は201億ドルで、来年半ばまでに7割の株式を取得する計画。手持ち資金と金融機関の融資などで買収資金を賄うとしたことでCB発行などファイナンス懸念が後退。この発表を受けて、2営業日で24%急落していた株価は急反発となった。クレディ・スイスが、歴史的な業界再編劇は歴史的な投資機会になったと指摘する一方、買収によるシナジー効果を疑問視する声もあがるなど強弱感が対立。株価は発表前の11日2861円から15日安値2200円の下げ幅の50%戻しレベル2550円でもみ合いに。なお、孫正義氏は他の買収案件を否定しなかったことから、改めてファイナンス実施への警戒感が重しとなりそうな状況に。

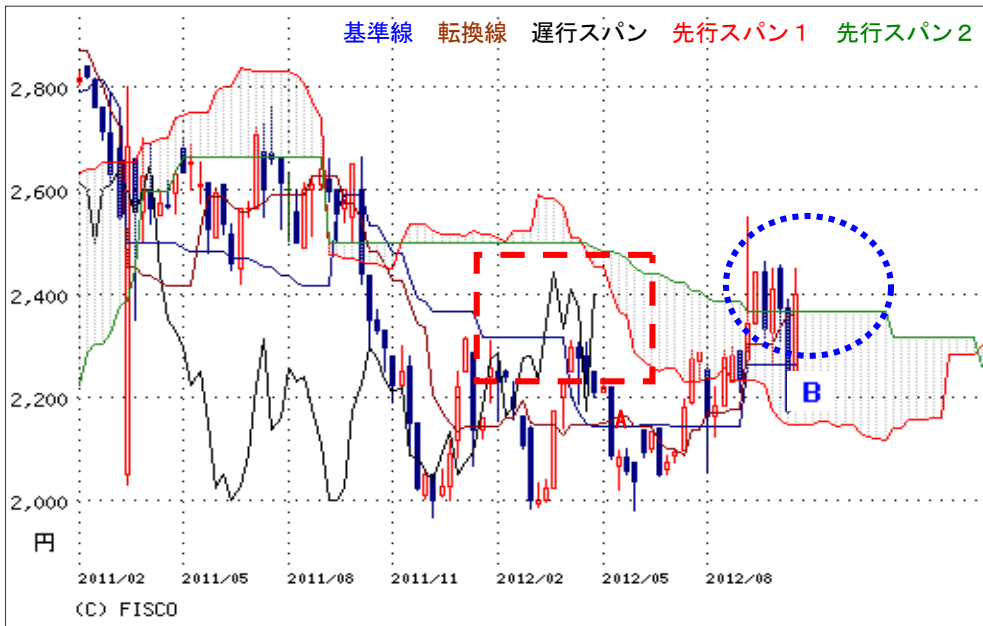
正式発表後は急反発も強弱感対立でもみ合いに



大黒天物産

東証一部<2791>

業種	小売
売買単位	100 株
19日終値	2401 円

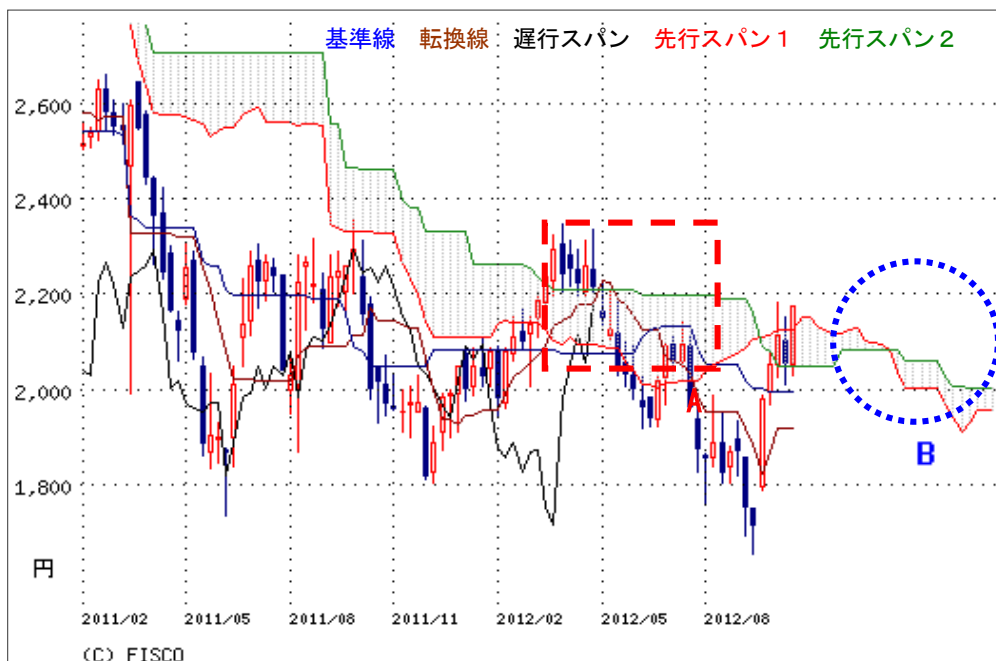


週足ベースの一目均衡表。12日に2170円まで急落したものの、V字回復で下落前の水準まで値を戻している。日足の一目均衡表では、雲上限をサポートとした横ばいとなっており、遅行スパンも実線に隠れたもみ合いの格好に。ただ、週足では遅行スパンが好転している(点線・四角A)なか、雲上限(2367円)からの上放れを試す展開(点線・丸B)となっている。9月に残した上ヒゲを吸収する動きを期待したい。

J-POWER

東証1部<9513>

業種	電気・ガス
売買単位	100 株
19日終値	2176 円



週足ベースの一目均衡表。先週末の上昇で10月高値2183円突破を試す展開となっている。週足の一目均衡表では、雲下限(2047円)をサポートに雲上限からの上放れが狙える状況に。実線が切り下がることで遅行スパンが好転する可能性も高いこと(点線・四角A)から、足元の地合いは良好。ただ、年末年始にかけて雲のねじれを迎える点(点線・丸B)が気になる。年初来高値2348円に接近するも、高値更新は年明けか。

テーマ別分析

2012年10月22日号

株式会社フィスコ

主要企業のアナリストコンセンサス数値

コード	銘柄	営業利益(百万円)				決算発表 予定日	株価(円)			騰落率(%)	
		上半期		通期			3月27日	10月12日	10月19日	3/27から 10/19まで	10/12から 10/19まで
		Bloomberg	QUICK	Bloomberg	QUICK						
3405	クラレ	24,700	23,833	54,791	55,000	11月1日	1,197	864	926	-22.6	7.2
3407	旭化成	35,183	33,722	90,346	91,836	11月1日	516	413	436	-15.5	5.6
4005	住友化学	26,017	25,237	67,094	68,570	10月31日	366	191	223	-39.1	16.8
4063	信越化学工業	84,673	83,941	164,442	163,283	10月25日	4,870	4,485	4,665	-4.2	4.0
4185	JSR	18,029	17,820	38,490	38,860	10月29日	1,716	1,240	1,335	-22.2	7.7
4188	三菱ケミカル	40,083	38,058	113,790	116,624	11月1日	452	281	316	-30.1	12.5
4901	富士フイルム	55,094	53,489	123,328	124,343	10月31日	2,003	1,306	1,432	-28.5	9.6
4902	ユニカミノルタ	19,044	18,326	48,209	48,064	10月31日	715	561	596	-16.6	6.2
6201	豊田自動織機	37,675	38,450	83,600	83,350	10月31日	2,544	2,156	2,294	-9.8	6.4
6273	SMC	46,486	46,526	87,630	88,844	11月9日	13,470	11,860	12,760	-5.3	7.6
6301	小松製作所	109,130	111,666	254,821	253,763	10月30日	2,414	1,545	1,752	-27.4	13.4
6326	クボタ	54,012	53,304	111,565	112,186	11月2日	822	792	821	-0.1	3.7
6367	ダイキン工業	50,479	49,902	94,568	93,373	11月7日	2,238	1,954	2,205	-1.5	12.8
6501	日立製作所	168,875	164,968	492,961	493,764	10月30日	529	404	440	-16.8	8.9
6502	東芝	73,903	67,513	258,007	256,177	10月31日	376	256	287	-23.7	12.1
6503	三菱電機	93,273	92,429	204,899	204,600	10月31日	727	575	642	-11.7	11.7
6586	マキタ	23,676	23,626	43,784	43,081	10月31日	3,475	3,000	3,200	-7.9	6.7
6594	日本電産	43,767	42,675	89,753	90,017	10月24日	7,610	5,100	5,390	-29.2	5.7
6645	オムロン	17,069	17,025	44,068	43,863	10月30日	1,856	1,521	1,593	-14.2	4.7
6701	日本電気	10,000	13,803	103,132	100,857	10月26日	167	125	137	-18.0	9.6
6702	富士通	6,514	5,895	121,524	120,656	10月31日	442	284	314	-29.0	10.6
6752	パナソニック	84,075	85,217	224,718	221,829	10月31日	773	483	518	-33.0	7.2
6758	ソニー	50,000	48,750	105,338	106,835	11月1日	1,742	908	983	-43.6	8.3
6762	TDK	18,600	18,086	48,126	49,452	10月31日	4,760	2,847	3,080	-35.3	8.2
6806	ヒロセ電機	10,533	10,750	21,228	21,133	10月31日	8,920	8,560	9,120	2.2	6.5
6861	キーエンス	47,800	48,067	94,791	95,232	10月29日	19,190	19,040	20,100	4.7	5.6
6902	デンソー	139,220	139,067	260,137	259,150	10月31日	2,820	2,388	2,556	-9.4	7.0
6954	ファナック	110,395	108,904	219,135	222,005	10月25日	15,510	12,170	13,290	-14.3	9.2
6963	ローム	4,433	4,100	9,655	9,682	11月8日	4,230	2,490	2,701	-36.1	8.5
6971	京セラ	36,575	28,329	94,192	97,333	10月31日	7,780	6,490	7,040	-9.5	8.5
6981	村田製作所	21,100	21,141	53,230	53,553	10月31日	5,100	3,805	4,080	-20.0	7.2
6988	日東電工	34,814	34,678	70,251	69,969	10月31日	3,365	3,350	3,640	8.2	8.7
7011	三菱重工業	67,849	67,858	133,264	133,633	10月31日	409	344	357	-12.7	3.8
7201	日産自動車	282,396	283,515	669,028	675,180	11月6日	894	666	709	-20.7	6.5
7202	いすゞ自動車	54,575	55,067	129,935	128,410	11月7日	482	381	415	-13.9	8.9
7203	トヨタ自動車	659,374	650,252	1,178,000	1,174,461	11月5日	3,600	2,934	3,140	-12.8	7.0
7205	日野自動車	28,825	28,240	56,171	56,051	10月25日	591	552	573	-3.0	3.8
7211	三菱自動車	31,000	31,000	79,500	80,500	10月30日	94	68	68	-27.7	0.0
7259	アイシン精機	87,119	87,066	168,979	169,067	10月31日	2,968	2,190	2,404	-19.0	9.8
7262	ダイハツ工業	71,387	68,717	127,218	126,685	10月25日	1,515	1,368	1,416	-6.5	3.5
7267	本田技研工業	317,336	321,750	652,038	656,020	10月29日	3,270	2,338	2,585	-20.9	10.6
7269	スズキ	65,875	63,894	125,201	126,464	11月9日	2,019	1,624	1,724	-14.6	6.2
7270	富士重工業	38,172	37,761	76,493	75,897	10月30日	676	694	717	6.1	3.3
7731	ニコン	38,000	37,943	92,196	91,906	11月1日	2,521	1,913	2,011	-20.2	5.1
7733	オリンパス	16,103	17,000	40,476	39,483	11月12日	1,304	1,481	1,390	6.6	-6.1
7741	HOYA	38,000	41,406	76,377	75,845	10月31日	1,937	1,635	1,677	-13.4	2.6
7751	キヤノン	289,911	265,294	375,010	376,174	10月25日	4,015	2,457	2,649	-34.0	7.8
7752	リコー	29,554	29,314	69,481	69,317	10月30日	827	690	748	-9.6	8.4
8035	東京エレクト	9,067	9,271	14,938	15,870	10月31日	4,910	3,435	3,625	-26.2	5.5

Bloomberg、QUICK データを元にフィスコ作成：

(注) コンセンサス数値は営業利益、HOYAは税引き前利益、キヤノンの上半期は第3四半期累計

スクリーニング分析

米アップルの新製品発表に注目

■電子書籍関連は久しぶりにテーマ物色も

米アップルが23日に特別イベントを開催、小型タブレット「iPad mini」の発表が予想されている。9月の米小売売上高は、電子機器が増加分の大半を占めるなど、新型スマートフォン「iPhone5」の好調な売れ行きを背景に、3ヶ月連続で拡大している。「iPad mini」はクリスマス商戦への起爆剤となる可能性もあり、市場の関心が高まろう。そのため、タブレット・タッチパネルの関連部品や素材を手掛けている企業のほか、電子書籍サービスを展開している企業に注目。同関連企業のなかで、①25日線とのプラス乖離、②年初来高値から安値に対する株価位置が80%以下の銘柄を挙げている。25日線プラス乖離によるサポート期待、株価位置については高値を狙える位置にある銘柄と、出遅れ感の強い銘柄の見直しを想定し、選定範囲を広げている。電子書籍などは、このところはテーマ物色もみられておらず、新鮮味がありそうだ。

主なタブレット・電子書籍関連の銘柄

コード	銘柄	市場	業種	10/19 株価(円)	時価総額 (億円)	25日平均 (円)	乖離率 (%)	年初来高値 価格(円)	年初来安値 価格(円)	高値-安値 価格位置 (%)
2330	SmartEbook.com	JASDAQ	情報・通信業	1,497	33	1,482	1.01	2,449	1,430	6.58
6640	第一精工	東証1部	電気機器	1,105	185	1,062	4.05	2,822	931	9.20
3627	ネオス	東証1部	情報・通信業	48,350	38	46,356	4.30	81,000	44,400	10.79
7818	トランザクション	JASDAQ	その他製品	813	26	801	1.50	1,200	750	14.00
7912	大日本印刷	東証1部	その他製品	556	3,895	550	1.09	873	503	14.32
4217	日立化成工業	東証1部	化学	1,082	2,255	1,068	1.31	1,610	992	14.56
3107	ダイワボウホールディングス	東証1部	卸売業	142	274	141	0.71	199	132	14.93
3436	SUMCO	東証1部	金属製品	574	1,479	545	5.32	1,065	480	16.07
6298	ワイエイシイ	東証1部	機械	495	48	485	2.06	712	453	16.22
4118	カネカ	東証1部	化学	397	1,390	386	2.85	530	370	16.88
4283	パナソニック インフォメーションシステムズ	東証1部	情報・通信業	1,871	199	1,865	0.32	2,250	1,793	17.07
4335	アイ・ピー・エス	JASDAQ	情報・通信業	21,940	5	21,740	0.92	37,550	18,500	18.06
6999	KOA	東証1部	電気機器	669	271	666	0.45	930	611	18.18
7726	黒田精工	東証2部	機械	140	39	138	1.45	184	130	18.52
5998	アドバネクス	東証1部	金属製品	74	31	73	1.37	130	61	18.84
4205	日本ゼオン	東証1部	化学	576	1,394	574	0.35	823	518	19.02
6962	大真空	大証1部	電気機器	231	105	222	4.05	326	200	24.60
5802	住友電気工業	東証1部	非鉄金属	878	6,971	849	3.42	1,166	775	26.34
4333	東邦システムサイエンス	東証2部	情報・通信業	404	28	403	0.25	468	370	34.69
3663	アーツパークホールディングス	東証2部	情報・通信業	263	17	212	24.06	419	179	35.00
9479	インプレスホールディングス	東証1部	情報・通信業	126	47	122	3.28	168	96	41.67
4799	アグレックス	東証1部	情報・通信業	755	79	754	0.13	800	710	50.00
3159	丸善CHIホールディングス	東証1部	小売業	221	205	219	0.91	253	188	50.77
6971	京セラ	東証1部	電気機器	7,040	13,468	6,700	5.07	8,030	6,000	51.23
6641	日新電機	東証1部	電気機器	503	542	470	7.02	595	384	56.40
7282	豊田合成	東証1部	輸送用機器	1,623	2,110	1,610	0.81	1,865	1,126	67.25
9477	角川グループホールディングス	東証1部	情報・通信業	2,443	666	2,319	5.35	2,709	1,851	69.00
4763	クリーク・アンド・リバー社	JASDAQ	サービス業	28,980	66	25,476	13.75	34,800	13,330	72.89
6988	日東電工	東証1部	化学	3,640	6,325	3,634	0.17	3,965	2,645	75.38
9962	ミスミグループ本社	東証1部	卸売業	1,977	1,795	1,921	2.92	2,074	1,617	78.77

QUICK データを元にフィスコ作成

■株価上昇要件の分散を意識

野村では投資戦略として従来から、日本株が本格的な上昇相場に転換するための要件の一つとして、「中国景気に対する見方の底打ち」を挙げている。経済指標／金融指標／商品市況は緩やかながらも改善が続いており、年内に中国景気の底打ち確認ができるものとして、引き続き期待をしているようである。しかしながら、中国景気の回復に想定以上の時間を要していることも事実であると指摘。

ここでは株価上昇要件の分散を意識。現状の割安な日本株に対する評価が変わるためのきっかけが何か存在するということが重要なのであり、それを中国経済の回復に限定する必要はないとの見方。今、「中国」が厳しいのであれば、より「米国」を意識することも一つのアイデアとの見解を示している。相対的にみれば、景気回復の確度が高まっているのは米国と。

<Russell/Nomura Large cap 銘柄の北米売上高比率リスト>

コード	決算期	銘柄	北米売上高 (百万円)	全売上高 (百万円)	北米売上高比率
7270	2012年3月	富士重工業	710,432	1,517,105	46.80%
7267	2012年3月	本田技研工業	3,480,732	7,948,095	43.80%
5108	2011年12月	ブリヂストン	1,273,312	3,024,355	42.10%
7974	2012年3月	任天堂	250,981	647,652	38.80%
4578	2012年3月	大塚ホールディングス	413,508	1,154,573	35.80%
2801	2012年3月	キッコーマン	92,028	283,239	32.50%
7201	2012年3月	日産自動車	2,998,518	9,409,026	31.90%
4502	2012年3月	武田薬品工業	464,399	1,508,932	30.80%
5334	2012年3月	日本特殊陶業	83,135	284,746	29.20%
6448	2012年3月	ブラザー工業	142,886	497,390	28.70%
7261	2012年3月	マツダ	575,633	2,033,058	28.30%
7751	2011年12月	キヤノン	961,955	3,557,433	27.00%
6965	2011年9月	浜松ホトニクス	27,258	101,858	26.80%
6925	2012年3月	ウシオ電機	40,143	150,087	26.70%
4568	2012年3月	第一三共	246,693	938,677	26.30%
7203	2012年3月	トヨタ自動車	4,715,804	18,583,653	25.40%
4523	2012年3月	エーザイ	164,300	647,976	25.40%
7752	2012年3月	リコー	468,728	1,903,477	24.60%
7731	2012年3月	ニコン	221,768	918,651	24.10%
7936	2012年3月	アシックス	59,002	247,792	23.80%
6301	2012年3月	小松製作所	460,814	1,981,763	23.30%
3382	2012年2月	セブン&アイ・ホールディングス	1,106,347	4,786,344	23.10%
6472	2012年3月	NTN	124,643	543,468	22.90%
4704	2011年12月	トレンドマイクロ	21,309	96,392	22.10%
6326	2012年3月	クボタ	219,929	1,008,019	21.80%
6754	2012年3月	アンリツ	19,884	93,586	21.20%
7735	2012年3月	大日本スクリーン製造	52,873	250,089	21.10%
9697	2012年3月	カプコン	17,334	82,065	21.10%
6857	2012年3月	アドバンテスト	29,742	141,048	21.10%
5101	2011年12月	横浜ゴム	95,607	465,133	20.60%

出所:野村証券

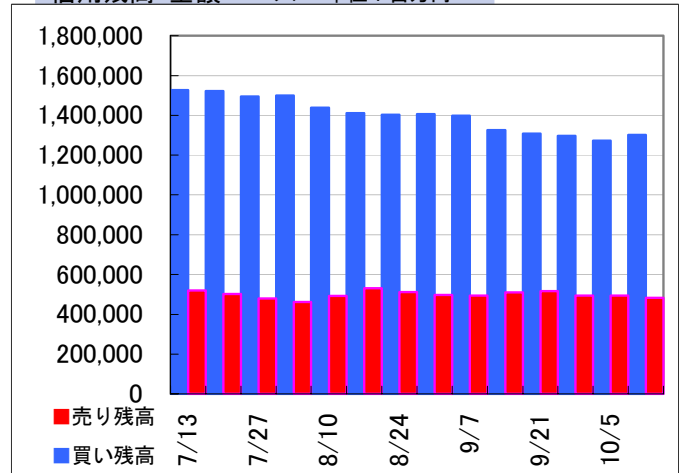
12日申し込み時点の三市場信用残高は、金額ベースで買い残高が286億円増加の1兆3019億円、売り残高は116億円減少の4828億円だった。買い残高は6週ぶりに増加、売り残高は3週連続で減少した。信用倍率（買い残高÷売り残高）は前週の2.57倍から2.70倍に上昇。買い方の信用評価損益率は前週の-15.29%から-16.82%に悪化。売り方の評価損益率は-9.74%から-6.65%に改善している。

この週（9-12日）の日経平均は前週末比329.18円安の8534.12円で取引を終了。国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを下方修正するなど、世界経済の先行き懸念が強まり、約2ヶ月ぶりの安値水準に。週末には米携帯電話3位のソフトバンク<9984>が急落。

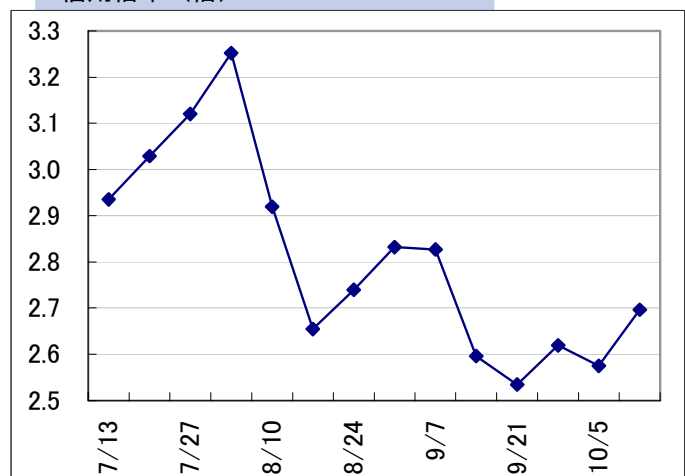
ソフトバンクは急落局面では押し目買いが強まり、買い残高は1372万株（前週末比570万株増）と昨年10月7日時点（1438万株）以来の水準、信用倍率は1.80倍から3.78倍となった。

そのほか、NTT<9432>の倍率は2.08倍から1.00倍に。パークレイズによる格下げにより、信用買い方の処分売り圧力が強まった格好。KDDI<9433>は0.45倍から0.28倍に取り組みに厚みが増している。ソフトバンクのイーアクセス<9427>買収による周波数増を受け、ソフトバンク買い、KDDI売りのリバランスに。

信用残高 金額ベース 単位：百万円



信用倍率 (倍)



取り組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	10/19終値 (円)	信用買残 (10/12:株)	信用売残 (10/12:株)	信用倍率 (10/12:倍)	信用買残 (10/5:株)	信用売残 (10/5:株)	信用倍率 (10/5:倍)
8766	東証1部	東京海上	2,185	361,000	602,200	0.60	435,500	315,800	1.38
9432	東証1部	NTT	3,880	347,200	346,400	1.00	781,800	375,200	2.08
5401	東証1部	日鉄住金	176	32,744,000	22,665,000	1.44	38,498,000	13,597,000	2.83
9433	東証1部	KDDI	6,020	89,500	320,100	0.28	97,600	217,000	0.45
8035	東証1部	東エレクト	3,625	1,350,800	862,800	1.57	1,505,600	603,800	2.49
2229	東証1部	カルビー	7,010	75,200	314,000	0.24	105,100	279,700	0.38
2914	東証1部	JT	2,315	959,300	891,400	1.08	941,100	588,000	1.60
1878	東証1部	大東建	7,970	23,500	128,300	0.18	35,700	143,800	0.25
8802	東証1部	菱地所	1,583	515,000	1,155,000	0.45	688,000	1,158,000	0.59
6301	東証1部	コマツ	1,752	11,561,700	2,099,500	5.51	11,711,500	1,633,500	7.17
9007	東証1部	小田急	837	40,000	2,150,000	0.02	54,000	2,089,000	0.03
7751	東証1部	キヤノン	2,649	5,553,100	760,500	7.30	5,471,500	594,300	9.21
4530	東証1部	久光薬	4,230	12,100	407,200	0.03	16,000	425,500	0.04
4661	東証1部	OLC	10,440	59,300	277,100	0.21	69,700	267,700	0.26
4503	東証1部	アステラス薬	3,900	124,200	351,000	0.35	151,700	350,800	0.43
9735	東証1部	セコム	4,105	96,100	255,800	0.38	101,100	215,800	0.47
5214	東証1部	日電硝	484	3,724,000	2,225,000	1.67	3,857,000	1,875,000	2.06

女心と秋の空

[1] ノルウェーからの疑惑

■ ラガルド IMF 専務理事とメルケル独首相の心変わり

ラガルド IMF 専務理事(1956 年生れ:フランス)は、これまでギリシャに対して財政再建を迫っていたが、財政再建に向けて時間的猶予を与えるべき、と心変わりしている。

メルケル独首相(1954 年生れ:ドイツ)も、これまでギリシャに対して冷淡だったが、サマラス・ギリシャ首相に対して金融支援を確約し、デフォルト(債務不履行)の可能性を否定した。

ドイツとフランスの女性は、幾多の女神を籠絡してきたギリシャの最高神ゼウスに、恋の媚薬で心を奪われたのだろうか。

■ 「金本位制度」と「ユーロ」の呪縛

20 世紀前半の欧米諸国は、「金本位制度」を採択して、自国通貨の価値を「金」に固定したが、限定的な金の量もたらすデフレ、世界大恐慌により、「金本位制度」を放棄した。

21 世紀前半のユーロ圏諸国は、統一通貨ユーロを採択して、自国通貨の価値を「ユーロ」に固定しているが、リセッション(景気後退)に陥りつつある。

ユーロを放棄するには、大恐慌のような最悪の事態に遭遇しなければならないのだろうか？

■ 2012 年ノーベル平和賞: 欧州連合 (EU)

アルフレッド・ノーベル(Alfred Nobel:1833 年-1896 年)は、「平和賞は、国家間の友愛関係の促進、常備軍の廃止・縮小、平和のための会議・促進に最も貢献した人物に授与する」と遺言した。

2012 年のノーベル平和賞の受賞者は、欧州連合 (EU) が選ばれた。ヤーグラン・ノルウェーノーベル委員会委員長は、「戦争の大陸だった欧州が平和の大陸に生まれ変わるのに核心的な役割を果たした欧州連合 (EU) は、大陸の和解と民主主義の達成に大きく寄与した。廃墟から築き上げた欧州の統合を逆戻りさせてはならない」と述べた。

ノルウェーは、捕鯨国でもあるため、欧州共同体 (EC) を含めると EU 加盟を国民投票で 2 度否決している。元ノルウェー首相のヤーグラン氏は、ノルウェーの加盟を推進した親 EU 派であり、政治信条で平和賞を与えたのではないかとの疑惑を招いている。

独シュピーゲル紙では、ユーロ懐疑論者は、平和賞受賞をエイプリル・フール並みの冗談だと揶揄した。

英テレグラフ紙では「パロディ以上。非民主的な連合体形成に向けた実験がどのような結果になるかわからないまま受賞するのは早すぎる」との論説を掲載した。

欧州連合 (EU) の本部が置かれているベルギーは南北分裂の危機にある。

英国(人口 6200 万人)は、欧州連合 (EU) からの離脱を問う国民投票が予定されており、2014 年にはスコットランド (520 万人) で分離独立を問う住民投票が実施される。

スペイン(4700 万人)では、カタルーニャ州(730 万人)が分離独立を求めている。

欧州連合 (EU) に対するノーベル平和賞の授与は、ヨーロッパの再結末に向けた饑なのだろうか、それとも失速して崩壊を告げる晩鐘なのだろうか。

■ 2012 年国際通貨基金 (IMF) 年次総会

2012 年 10 月初旬、アメリカ合衆国では、2012 年末の「財政の崖」に向かって、オバマ米大統領とロムニー共和党候補がチキンゲームに興じていた。

ユーロ圏と英国は、リセッション(景気後退)に陥りつつあるのに、緊縮財政を課していた。

経済成長を謳歌していた BRIC (ブラジル、ロシア、インド、中国) も、景気減速に陥りつつある。

2012 年 10 月 9-14 日、東京の秋空の下で開催された国際通貨基金 (IMF) 総会では、緊縮策の弊害回避の必要性が認識され、成長重視の路線への転換が示唆された。

国際通貨基金 (IMF) は、緊縮財政政策へ警告を発し、財政拡大による経済成長を奨励した。

世界的に景気が減速・後退しつつある状況で、緊縮財政路線を中断して、成長を重視する景気拡大路線への転換が示唆されたことは、重要視すべきことなのかもしれない。

[2] ノルウェーからの「答え Anser」

「ライダーカップ (Ryder Cup)」とは、男子プロゴルファーのアメリカツアーとヨーロッパツアーの対抗戦であり、1927 年に英国の富豪、サムエル・ライダーの提唱により、第 1 回が開催された。2012 年の第 39 回大会までの通算戦績は、米国チームの 25 勝 12 敗 2 分。

「ソルハイムカップ (Solheim Cup)」とは、女子プロゴルファーのアメリカツアーとヨーロッパツアーの対抗戦であり、1990 年に米国のゴルフクラブメーカー「ピン (Ping)」の創業者、カーステン・ソルハイムの提唱により、第 1 回が開催された。

2011 年の第 12 回大会までの通算戦績は、米国チームの 8 勝 4 敗。

今週の
Market Data

①	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-6
②	レーティング	格上げ・買い推奨	7
		格下げ・売り推奨	8
③	投資主体別売買動向	総括コメント	9
		市場別データ	10
④	新規上場銘柄	結果とスケジュール	11
⑤	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（東証1部）	12
		雲下抜け銘柄（東証1部）	13
⑥	その他データ	先物市場動向	14
		手口情報 日経平均先物/TOPIX先物	15-16
		投信スケジュール	17
		公募売出动向	18

10月22日~10月27日 ※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容	市場コンセンサス	前回数値		
10月22日	月	08:50	貿易統計(9月、財務省)	-5091億円	-7541億円		
		09:00	全国支店長会議(日銀本店、日本銀行)				
		09:30	白川方明総裁、あいさつ要旨公表				
		14:00	食品安全委員会会合、米国産牛肉などの輸入規制について討議(赤坂パークビル)				
		14:00	全国スーパー売上高(9月、日本チェーンストア協会)		-1.3%		
		14:00	民生用電子機器国内出荷(テレビ・DVD出荷9月、電子情報技術産業協会)		-44.7%		
		14:30	「地域経済報告」(10月)				
		14:30	百貨店売上高(全国・東京地区9月、日本百貨店協会)		0.2%		
		15:15	大阪支店長会見(日本銀行)				
		16:00	コンビニエンスストア売上高(9月、日本フランチャイズチェーン協会)		-1.3%		
		17:20	名古屋、札幌、福岡3支店長会見(日本銀行)				
		18:00	欧・ユーロ圏の財政赤字GDP比(2011年)		87.2%		
			欧・企業決算: オランダのフィリップス				
			米・企業決算: キャタピラー、テキサス・インスツルメンツ(TI)、ヤフー				
			米・大統領候補による第3回討論会(フロリダ州ボカトン)				
		10月23日	火	10:00	営業毎旬報告(10月20日現在、日本銀行)		
				11:00	ルネサスエレクトロニクス、マイコン製品展開の説明会(朝日生命大手町ビル)		
11:00	シャープ、スマートフォン新製品説明会(シャープ東京支社)						
12:00	日本航空の稲盛和夫名誉会長が講演(日本外国特派員協会)						
14:00	パソコン出荷(9月、電子情報技術産業協会)				-5.9%		
15:40	グリーとスクウェア・エニックス・ホールディングス、共同記者会見(パレスホテル東京)						
21:30	加・小売売上高(8月)			0.2%	0.4%		
22:00	加・カナダ中銀政策金利(10月)			1%	1%		
23:00	欧・ユーロ圏消費者信頼感指数(10月、速報値)			-26.0	-25.9		
23:00	米・リッチモンド連銀製造業景況指数(10月)			4	4		
	欧・企業決算: STマイクロエレクトロニクス						
	香・重陽節の祝日で株式市場は休場						
	米・アップルが特別イベント開催(カリフォルニア州サンノゼ)						
	米・グリーンズパン前FRB議長が講演(ニューヨーク)						
	米・企業決算: UPS、フェイスブック、アフラック、3M						
10月24日	水			09:30	豪・消費者物価指数(7-9月)	1.6%	1.2%
				15:00	工作機械受注(9月確報、日本工作機械工業会)		
		16:30	独・サービス業購買担当者指数(PMI)(10月)	50	49.7		
		16:30	独・製造業購買担当者指数(PMI)(10月)	47.9	47.4		
		17:00	欧・サービス業購買担当者指数(PMI)(10月)	46.4	46.1		
		17:00	欧・製造業購買担当者指数(PMI)(10月)	46.5	46.1		
		17:00	独・IFO景況感指数(10月)	101.7	101.4		
		17:00	南ア・消費者物価指数(9月)	5.1%	5%		
		20:00	米・MBA住宅ローン申請指数(先週)		-4.2%		
		23:00	米・住宅価格指数(FHFA)(8月)		0.2%		
		23:30	米・新築住宅販売件数(9月)	38.5万件	37.3万件		
		25:00	仏・求職者数合計(9月)		3011		
		27:15	米・連邦公開市場委員会(FOMC)政策金利(10月)	0.25%	0.25%		
		29:00	NZ・NZ中銀(RBNZ)政策金利(10月)	2.5%	2.5%		
			ブ・企業決算: ヴァーレ				
			印・ヒンズー教の祝日のため株式市場は休場				
			欧・企業決算: ボルボ、フォルクスワーゲン				
			欧・欧州中央銀行(ECB)ドラギ総裁がドイツ議員に対し債務危機について講義(ベルリン)				
			中・HSBC製造業PMI(10月、速報値)		47.9		
			米・企業決算: ボーイング、AT&T				

10月22日～10月27日 ※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容	市場コンセンサス	前回数値
10月25日	木	08:50	企業向けサービス価格(9月、日本銀行)	-0.5%	-0.3%
		17:30	英・国内総生産(GDP)(7-9月)		-0.4%
		18:30	南ア・生産者物価指数(9月)	5.4%	5.1%
		21:30	米・シカゴ連銀全米活動指数(9月)		-0.87
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)	36.5万件	38.8万件
		21:30	米・耐久財受注(9月)	6.5%	-132%
		30:45	NZ・貿易収支(9月)	-8.5億NZドル	-7.89億NZドル
			亜・企業決算:チャイナ・ユニコム(中国聯通)、中国銀行		
			欧・企業決算:クレディ・スイス・グループ、ノバルティス、ダイムラー、サノフィ、サンタンデル銀行		
			米・企業決算:P&G、スプリント・ネクステル、アップル、アマゾン・ドット・コム		
10月26日	金	08:30	消費者物価指数(CPI全国9月、東京都区部10月中旬、総務省)	-0.2%	-0.3%
		15:00	独・GfK消費者信頼感指数(11月)	5.9	5.9
		21:30	米・国内総生産(GDP)(7-9月)	1.8%	1.3%
		22:55	米・ミシガン大学消費者信頼感指数(10月、確定値)		
			北米・メキシコ中央銀行、政策金利発表		
			亜・企業決算:中国建設銀行、中国農業銀行		
			韓・7-9月GDP(速報値)		
			米・企業決算:メルク		
10月27日	土		中・工業利益(9月)		

日米主要経済指標のポイント

■(日)9月貿易収支 22日(月)午前8時50分発表

(予想は、-5091億円) 既公表の9月上中旬の貿易収支は2577億円の赤字。米国向け輸出の増加期待もあるが、アジア向け輸出の減少によって9月の貿易収支は赤字の公算。ただし、赤字幅は8月の-7541億円との比較で大幅に縮小する見込み。

■(米)9月新築住宅販売件数 24日(水)日本時間午後11時発表

(予想は、38.5万户) 参考指標の住宅建設業者(NAHB)指数は9月40←8月37と上昇し、プラス要因。9月中の住宅ローン金利は3.50%近辺に低下し、プラス要因。住宅ローン申請指数内訳の新規購入指数は9月21日までの週で187.0まで上昇し、プラス要因。8月37.3万件から増加が見込まれる。

■(日)9月全国消費者物価指数 26日(金)午前8時30分発表

(予想は、全体の数字が前年比-0.4%、コアは同比-0.2%) 物価下落率は8月と同水準か。テレビ、冷蔵庫の価格下落の影響が残りそう。参考指標となる9月の東京コアCPIは、前年比-0.4で8月の-0.5%との比較で下落率は小さくなっている。

■(米)7-9月期国内総生産(GDP)速報値 26日(金)日本時間午後9時30分発表

(予想は、前期比年率+1.8%) 7-9月期の小売売上高は前期比+1.3%。貿易収支は、9月分は未発表だが、4-6月期の平均との比較で赤字幅は縮小の公算。若干の上振れリスクがありそう。

2012年10月22日号

株式会社フィスコ

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
10月22日	2594	キーコーヒー	東証1部	14:00	10月26日	2268	サーティワン	ジャスダックス	
	2811	カゴメ	東証1部	15:40		2397	DNAチップ	マザーズ	16:00
	4765	モーニングスタ	ジャスダックス			2599	ジャパンF	東証1部	13:00
	6297	鉱研工業	ジャスダックス			3275	ハウスコム	ジャスダックス	
	6676	メルコ	東証1部	15:00		3328	ネットプライス	マザーズ	16:00
	7311	カワムラサイクル	マザーズ	15:00		3778	さくら	マザーズ	
	7466	SPK	東証1部	15:00		4045	東亜合成	東証1部	
	9950	ハチパン	ジャスダックス			4063	信越化	東証1部	13:00
	10月23日	2155	カービュー	マザーズ		15:00	4327	日本SHL	ジャスダックス
2413		エムスリー	東証1部	15:00	4556	カインズ	ジャスダックス		
2656		ベクター	ジャスダックス		4722	フューチャー	東証1部		
3790		日本オフィス	ジャスダックス		4724	ウェアハウス	東証1部	15:00	
4283		パナIS	東証1部	11:00	4751	サイバエージ(10/25)	マザーズ	15:00	
4452		花王	東証1部	15:00	4792	山田コンサル	ジャスダックス		
4519		中外薬(10/23)	東証1部	16:30	4817	JCOM	ジャスダックス	12:00	
4743		ITFOR	東証1部	16:00	4832	JFE-SI	東証2部	14:00	
5204		石塚硝	東証1部	13:00	4838	Sシャワー	ジャスダックス		
5758		FCM	ジャスダックス		4973	高純度化	東証1部	15:00	
6858		小野測	東証1部		5486	日立金	東証1部	13:00	
7559		GFC	ジャスダックス		6023	ダイハツデ	大証2部		
7739		キヤノン電	東証1部	15:00	6210	東洋機械	大証1部	15:00	
8014		蝶理	東証1部	11:00	6256	ニューフレア	ジャスダックス		
8060		キヤノンMJ	東証1部	15:00	6305	日立建	東証1部	15:00	
8628		松井証	東証1部	08:20	6504	富士電機(10/26)	東証1部	15:30	
8772		アサックス	東証1部	15:00	6581	日立工	東証1部	16:00	
9436		沖縄セルラー	ジャスダックス		6590	芝浦メカ	東証1部	13:00	
9691		両毛シス	ジャスダックス		6627	テラプロ	マザーズ	16:00	
10月24日	3660	アイスタイル	マザーズ		6629	テクノHR	ジャスダックス		
	3789	ソネット	東証1部	15:00	6663	太洋工業	ジャスダックス		
	4340	シンプレクス	東証1部	15:00	6727	ワコム	東証1部	15:00	
	4549	栄研化	東証1部	15:00	6730	アクセル	東証1部	15:00	
	4689	ヤフー(10/24)	東証1部	15:10	6788	日本トリム	東証1部	15:00	
	4713	日信電サ	東証2部	15:00	6857	アドテスト	東証1部	15:00	
	4726	ソフトバンク	東証1部	16:00	6860	パナSUNX	東証1部	16:00	
	5214	日電硝(10/25)	東証1部	15:00	6946	日アビオ	東証2部	16:00	
	5411	JFEHD	東証1部	14:00	6954	ファナック	東証1部	15:30	
	5963	日立ツール	東証1部	16:00	7007	佐世保	東証1部	16:00	
	6594	日電産(10/25)	大証1部	15:20	7205	日野自	東証1部	15:00	
	6747	KIHD	東証2部	16:00	7262	ダイハツ	東証1部	13:00	
	6798	SMK	東証1部	15:00	7477	ムラキ	ジャスダックス		
	6807	航空電	東証1部	15:00	7518	ネットワン	東証1部	13:00	
	6833	電産リード	大証2部	15:20	7751	キヤノン(10/25)	東証1部	15:00	
	6883	電産コ電	東証1部	15:00	7897	ホクシン	東証1部	16:00	
	7615	京都友禅	東証1部	15:00	7976	菱鉛筆	東証1部		
	7728	電産トソク	東証1部	15:00	8036	日立ハイテク	東証1部	15:30	
	7756	電産コパル	東証1部	15:00	8512	大証金	大証1部	15:40	
	7931	未来工業	名証2部		8864	空港施設	東証1部	15:00	
	7970	信越ポリ	東証1部	17:00	8871	ゴールドクレ	東証1部	15:00	
	7974	任天堂	大証1部	16:00	8898	センチュリー21	ジャスダックス		
	8151	東陽テク	東証1部	14:00	9477	角川GHD	東証1部	14:00	
	8203	MrMax	東証1部	15:00	9542	新日ガス	東証2部	13:00	
	8248	ニッセンHD	大証1部		9640	セゾン情	ジャスダックス		
	8698	マネックスG(10/25)	東証1部		9658	太田昭	ジャスダックス		
	8703	KABU.COM	東証1部	15:00	9818	大丸エナ	東証2部	14:00	
	9430	NECモバイル	東証1部	15:00	9889	JBCCHD	東証1部	17:00	
	9433	KDDI(10/24)	東証1部	15:00	9919	関西スパ	大証2部	15:00	
	9914	植松商	ジャスダックス		1381	アクシーズ	ジャスダックス		
	9922	日立材	東証2部	15:00	1734	北弘電社	札証		
	10月25日	1973	NECネSI	東証1部	11:00	1777	川崎設備	名証2部	
		2165	メガロス	ジャスダックス		1878	大東建	東証1部	11:30

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
10月26日	1924	パナホーム	東証1部	15:20	7229	ユタカ技研	ジャスダックS		
	1930	北電事	東証1部	15:00	7276	小糸製	東証1部	16:00	
	1972	三晃金	東証1部	14:00	7296	エフ・シー・シー	東証1部	15:00	
	2183	リニカル	マザーズ	16:00	7299	オーゼックス	東証2部	15:00	
	2204	中村屋	東証1部	15:00	7404	昭和飛	東証2部	15:00	
	2208	ブルボン	東証2部		7422	東邦レマック	ジャスダックS		
	2321	ソフトフロント	ジャスダックG		7558	トーマンエレクト	東証1部	15:00	
	2322	NECフィール	東証1部	11:00	7595	アルゴグラフ	東証1部	15:00	
	2327	NSSOL	東証1部	11:30	7612	CWE	ジャスダックS		
	2664	カワチ薬品	東証1部	15:00	7862	トッパン・F	東証1部	11:00	
	2714	プラマテルズ	ジャスダックS		7939	研創	ジャスダックS		
	2737	トーマンデバ	東証1部	11:00	8005	スクロール	東証1部	16:00	
	2804	ブルドック	東証2部	15:00	8096	兼松エレクト	東証1部	14:00	
	3529	アツギ	東証1部	13:00	8119	三栄コボ	ジャスダックS		
	3634	ソケッツ	マザーズ		8133	エネクス	東証1部	14:00	
	3639	ホルテージ	東証1部		8157	都築電	東証2部	16:00	
	3828	ニフティ	東証2部	16:00	8165	千趣会	東証1部		
	3839	ODK	ジャスダックS		8249	テクノアソシエ	東証2部	13:00	
	3841	ジーダット	ジャスダックS		8285	三谷産	名証2部		
	3844	コムチュア	ジャスダックS	15:30	8591	オリックス(10/29)	東証1部	15:30	
	3848	データアプリ	ジャスダックS		8609	岡三	東証1部	11:00	
	3850	NTTDIM	マザーズ	15:00	8625	高木証	東証2部	14:00	
	4107	伊勢化	東証2部		8704	トレイダーズ	ジャスダックS		
	4151	協和キリン	東証1部	13:30	8706	極東証券	東証1部	11:00	
	4212	積水樹	東証1部	14:00	8707	岩井コスモ	東証1部		
	4307	NRI	東証1部	15:00	8708	アイザワ証	ジャスダックS		
	4312	サイバネット	東証1部	13:00	8709	インヴァスト	ジャスダックS		
	4347	プロメディア	ジャスダックS		8783	GFA	ジャスダックS		
	4462	石原薬	東証2部	14:00	8793	NECキャピ	東証1部	15:00	
	4517	ビオフェル	大証1部		8818	京阪神ビ	大証1部	13:00	
	4705	クリップ	ジャスダックS		8877	エスリード	東証1部	13:00	
	4762	エックスネット	東証1部	14:00	8914	エリアルリンク	マザーズ		
	4793	BSC	ジャスダックS		9311	アサガミ	東証2部	14:00	
	4839	WOWOW	東証1部	13:00	9368	キムラユニティー	東証1部	11:00	
	4957	ヤスハラケミカル	東証2部	16:00	9437	NTTドコモ(10/26)	東証1部	15:00	
	4999	セメダイン	東証2部	15:00	9621	建設技研	東証1部		
	5015	BPカストロール	東証1部		9638	情報技	ジャスダックS	17:00	
	5191	東海ゴム	東証1部	13:00	9680	共成レンテ	東証2部	15:00	
	5279	日興業	ジャスダックS		9708	帝国ホテル	東証2部	14:00	
	5819	カナレ電気	東証1部		9742	アイネス	東証1部	14:00	
	5909	コロナ	東証1部	15:00	9761	東海リース	東証2部	15:00	
	5959	岡部	東証1部		9931	家族亭	ジャスダックS		
	5986	モリテック	大証1部		9990	東京デリカ	東証1部	13:00	
	6140	旭ダイヤ	東証1部	15:00					
	6161	エステック	マザーズ	14:00					
	6287	サトーHD	東証1部	16:00					
	6395	タダノ	東証1部	15:00					
	6454	マックス	東証1部	15:00					
6701	NEC	東証1部	15:00						
6722	A&T	ジャスダックS							
6755	富通ゼネ	東証1部	16:00						
6826	本多通信	東証2部	16:00						
6837	京写	ジャスダックS							
6875	メガチップス	東証1部	15:00						
6888	アクモス	ジャスダックS							
6923	スタンレ電	東証1部	15:00						
6928	エノモト	ジャスダックS							
7102	日車輛	東証1部	15:00						
7148	FPG	東証2部	16:00						
7162	アストマックス	ジャスダックS							

格上げ・買い推奨

株式会社フィスコ

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
10月15日	JPモルガン	6366	千代建	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	900→2300
	UBS	7203	トヨタ	BUY新規	3700
		7267	ホンダ	BUY新規	3000
	みずほ	2398	ツクイ	買い新規	2200
	岩井コスモ	3432	三協立山	B+→A格上げ	-
		9883	富士エレク	A新規	-
	三菱UFJ	4689	ヤフー	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	22700→36000
5017		AOCHD	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	260→270	
10月16日	シティ	6861	キーエンス	3→2格上げ	19500
	東海東京	3593	ホギメディ	2→1格上げ	-
10月17日	CS	8957	東急RE	UNDERPERFORM→NEUTRAL格上げ	315000→427000
	岡三	7718	スター精	中立→強気格上げ	750
	三菱UFJ	6976	太陽電	UNDERPERFORM→NEUTRAL格上げ	620
10月18日	CS	6113	アマダ	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	520→450
	JPモルガン	6641	日新電	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	500→650
	UBS	9603	エイチ・アイエス	BUY新規	3500
	いちよし	5384	フジミインコ	B→A格上げ	-
10月19日	JPモルガン	9201	JAL	OVERWEIGHT新規	5000
	SMBCフレンド	1606	海洋掘削	強気新規	-
	シティ	5214	日電硝	3→2格上げ	380→480
	岩井コスモ	9381	エーアイティー	B+新規	-

格下げ・売り推奨

株式会社フィスコ

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

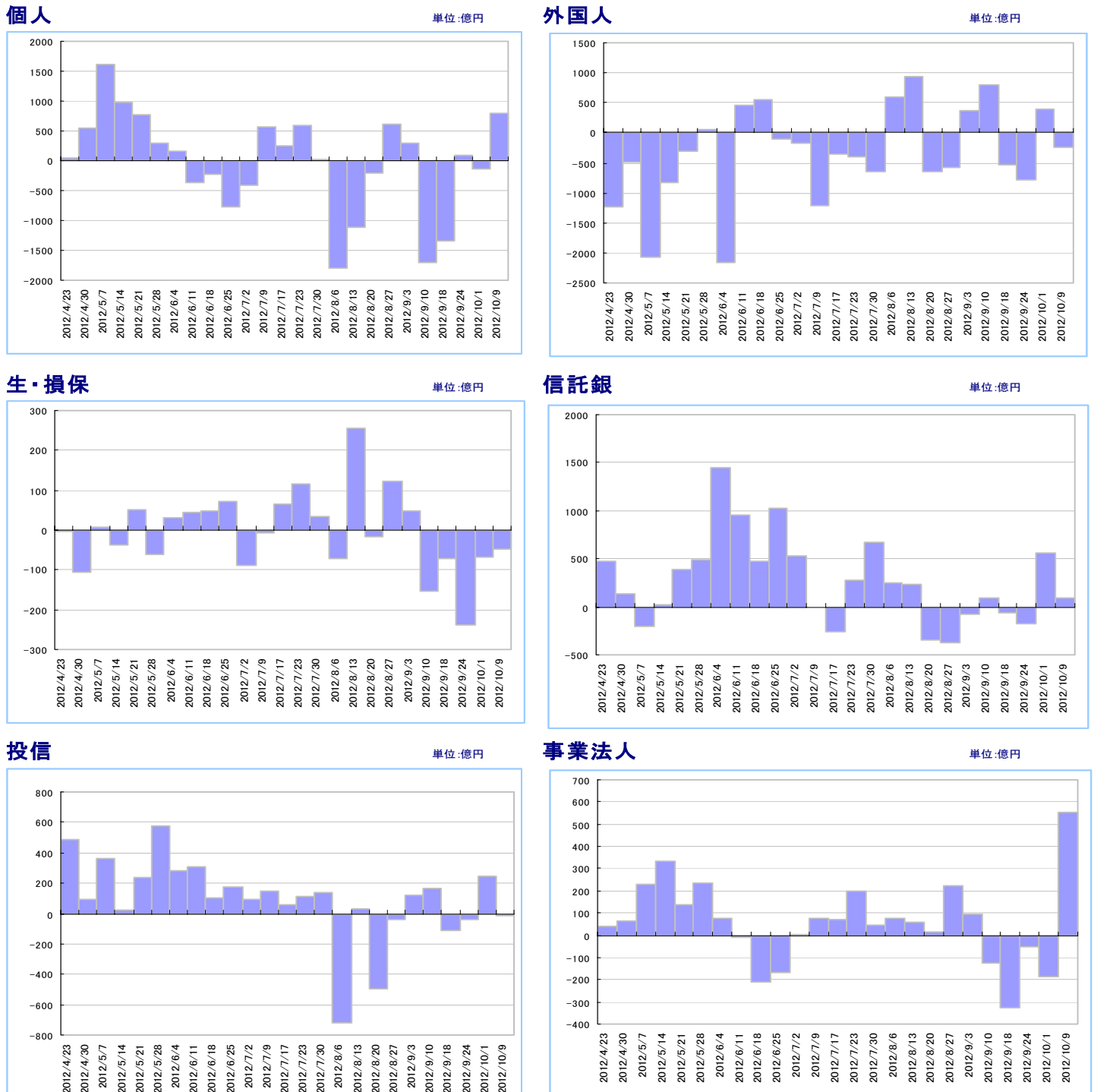
日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
10月15日	SMBCフレンド	8233	高島屋	強気→中立格下げ	-
	UBS	9984	ソフトバンク	BUY→NEUTRAL格下げ	3570→2350
	大和	7309	シマノ	2→3格下げ	-
10月16日	いちよし	2668	タビオ	A→B格下げ	-
	ゴールドマン	8358	スルガ銀	買い→中立格下げ	1020
	みずほ	5411	JFEHD	買い→中立格下げ	1850→1100
	岩井コスモ	4208	宇部興	B+→B格下げ	-
	三菱UFJ	8273	イズミ	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	1900
	東海東京	6702	富士通	2→3格下げ	-
	野村	9793	ダイセキ	NEUTRAL→REDUCE格下げ	1320→900
10月17日	SMBC日興	7240	NOK	1→2格下げ	1950→1770
	いちよし	2668	タビオ	A→B格下げ	-
	みずほ	4114	日触媒	買い→中立格下げ	1150→830
	モルガン	3249	産業ファ	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	620000
	東海東京	6641	日新電	1→2格下げ	-
10月18日	CS	6103	オークマ	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	750→500
		6141	森精機	NEUTRAL→UNDERPERFORM格下げ	600→400
		6954	ファナック	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	14800→11000
	SMBCフレンド	9983	ファーストリテイ	強気→中立格下げ	-
	UBS	6370	栗田工	NEUTRAL→SELL格下げ	1750→1400
	みずほ	6789	ローランドDG	中立→UNDERPERFORM格下げ	1000→700
	モルガン	9101	郵船	EQUALWEIGHT→UNDERWEIGHT格下げ	260→140
		9104	商船三井	OVERWEIGHT→UNDERWEIGHT格下げ	370→160
		9107	川崎船	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	230→100
	大和	6753	シャープ	3→4格下げ	-
	東海東京	3268	一建設	2→3格下げ	2800→2700
10月19日	CS	7915	日写印	NEUTRAL→UNDERPERFORM格下げ	850→550
	JPモルガン	6273	SMC	OVERWEIGHT→NEUTRAL格下げ	15500→13800
	東海東京	6762	TDK	1→2格下げ	3500
	野村	8253	クレセゾン	NEUTRAL→REDUCE格下げ	1600
		8572	アコム	NEUTRAL→REDUCE格下げ	1900

「外国人投資家」は総合で売り越し継続

株式会社フィスコ

10月第2週(10/9~10/12)の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で349億円と売り越し継続となった。現物についても、売り越しに転じた。一方、個人投資家は798億円と買い越し継続に。

その他、投信は132億円、信託は325億円とそれぞれ買い越し継続となった。事法は535億円、生・損保は114億円とそれぞれ買い越しに転じた。都地銀は89億円と売り越しに転じた。自己はTOPIX先物買いの、現物、225先物売りで1663億円と売り越しに転じた。なお、週間の騰落率は日経平均で3.71%の大幅下落へ。



市場別データ

株式会社フィスコ

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	12/07/02	21	▲414	▲162	93	0	▲90	▲51	526
	12/07/09	44	563	▲1,204	147	76	▲6	▲17	1
	12/07/16	▲62	244	▲364	61	68	65	▲27	▲256
	12/07/23	▲1,273	594	▲402	114	198	115	▲22	278
	12/07/30	▲301	21	▲650	135	49	33	12	666
	12/08/06	1,823	▲1,792	592	▲722	80	▲73	1	246
	12/08/13	▲270	▲1,125	942	27	57	257	▲27	228
	12/08/20	1,656	▲208	▲641	▲495	15	▲15	▲26	▲349
	12/08/27	▲3	622	▲581	▲38	225	123	▲117	▲375
	12/09/03	▲999	302	366	123	98	49	3	▲81
	12/09/10	1,097	▲1,706	794	165	▲124	▲153	▲20	95
	12/09/18	2,421	▲1,341	▲525	▲111	▲327	▲72	▲8	▲63
	12/09/24	1,074	97	▲784	▲38	▲49	▲239	▲29	▲168
	12/10/01	▲728	▲139	382	243	▲189	▲70	▲19	554
12/10/09	▲1,304	800	▲241	▲12	556	▲47	▲15	89	

T O P I X 先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	12/07/02	▲478	▲6	768	▲13	0	54	16	▲317
	12/07/09	▲237	8	1,105	▲220	0	▲60	▲22	▲577
	12/07/16	497	15	▲273	▲23	▲0	▲17	14	▲207
	12/07/23	910	▲6	▲391	▲58	▲0	▲4	▲15	▲432
	12/07/30	317	▲1	▲244	43	0	63	▲36	▲145
	12/08/06	▲989	5	169	28	0	94	▲7	694
	12/08/13	▲221	12	587	▲75	0	▲141	65	▲244
	12/08/20	▲670	▲2	753	9	0	▲84	▲64	57
	12/08/27	278	10	2	▲29	0	▲152	47	▲152
	12/09/03	974	▲4	▲719	▲273	0	38	▲27	16
	12/09/10	▲104	0	▲274	304	1	▲10	59	27
	12/09/18	▲753	▲7	1,087	▲9	0	▲65	▲13	▲235
	12/09/24	▲1,189	▲6	▲787	250	0	▲65	7	1,795
	12/10/01	646	▲2	▲603	▲52	0	▲1	▲45	56
12/10/09	806	▲12	▲763	▲4	0	118	▲30	▲117	

日経平均先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	12/07/02	▲1,065	216	1,427	▲172	43	0	32	▲508
	12/07/09	217	▲171	153	▲24	▲15	▲83	▲7	▲121
	12/07/16	▲900	62	699	65	96	0	▲1	▲45
	12/07/23	158	▲78	▲489	79	▲157	97	▲103	555
	12/07/30	139	117	▲608	▲20	66	0	43	215
	12/08/06	▲318	▲322	986	▲141	▲12	0	▲170	▲18
	12/08/13	▲125	▲64	123	▲61	5	▲17	167	6
	12/08/20	▲1,216	95	779	1,016	▲2	▲23	72	▲755
	12/08/27	15	212	▲233	▲47	▲12	▲31	▲43	69
	12/09/03	▲99	▲117	▲216	121	14	13	132	295
	12/09/10	384	130	▲617	▲291	16	15	▲139	339
	12/09/18	▲1,847	2	2,737	▲8	11	▲50	▲546	▲329
	12/09/24	▲720	28	729	132	32	▲116	▲180	117
	12/10/01	308	142	▲468	103	▲50	0	72	▲86
12/10/09	▲1,165	10	655	148	▲21	43	▲44	353	

結果とスケジュール

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	10/19終値 (円)
トレンダーズ	6069	東M	10/19	2300~2550	270,000	40,500	2,550	-	大和	-
事業内容:	ソーシャルメディアマーケティング事業、女性のためのライフスタイル支援メディア事業									
三洋貿易	3176	東2	10/23	420~460	2,600,000	689,000	460	-	MUMSS	-
事業内容:	ゴム類、化学品類、自動車部品、機械器具、精密測定機器および分析機器、その他各種商品の輸出入および国内販売									
阿波製紙	3896	東2	10/23	330~370	1,900,000	975,000	370	-	大和	-
事業内容:	特殊紙及び機能材料の製造及び販売									
ありがとうサービス	3177	JQ S	11/12	~	70,000	250,000	-	-	野村	-
事業内容:	「HARD OFF」及び「BOOK OFF」のFC店舗の運営を行うリユース事業並びに「モスバーガー」等のFC店舗の運営等を行うフードサービス事業									
キャリアリンク	6070	東M	11/15	~	600,000	780,000	-	-	野村	-
事業内容:	BPO、CRM分野における人材派遣を中心とした人材サービス事業									
エストラスト	3280	東M	11/21	~	250,000	83,800	-	-	SBI	-
事業内容:	不動産分譲事業(用地仕入、企画、分譲)、不動産管理事業(管理受託、収益不動産の賃貸)									

雲抜け銘柄

株式会社フィスコ

雲上抜け銘柄 (東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1780	ヤマウラ	239	227.75	215.5	1866	北野建	187	186.75	185.5
1930	北陸電工	229	227.75	226	2053	中部飼	550	526.25	524.5
2207	名糖産	1035	1018.75	1016.5	2317	システナ	69300	57575	67500
2395	新日科学	280	253.75	267	2453	JBR	79700	73700	77950
2676	高千穂交	880	878.25	852	2791	大黒天	2401	2145.75	2367.5
2910	Rフィールド	1482	1480.75	1402	3003	ヒューリック	565	390.25	530.5
3225	東建不販	264	260.5	246	3258	常和HD	1435	1399.25	1362
3382	7&IHD	2426	2305.75	2229	3421	稲葉製作	1003	999.75	940
3636	三菱総研	1700	1665.5	1585.5	4095	パーカライ	1162	1151.5	1098.5
4312	サイバネット	22080	21352.5	21400	4548	生化学	912	884.25	885
4619	日特塗	346	335.5	326.5	4626	太陽HD	2242	2125.25	2195
4914	高砂香料	400	380.5	389.5	4997	日農薬	363	354	343
5101	浜ゴム	568	538.75	503.5	5122	オカモト	317	315.25	299
6151	日東工器	1860	1799.5	1803	6409	キトー	68000	67050	63500
6413	理想科学	1330	1245.25	1288	6428	オーイズミ	288	283	273.5
6586	マキタ	3200	3145.25	3113	6807	航空電子	669	658.5	604
6859	エスベック	663	651.5	617	6902	デンソー	2556	2539.25	2500
6952	カシオ	570	540	543.5	6988	日東電	3640	3221.25	3637.5
7250	太平洋工	462	456	428	7451	三菱食品	2027	2025.25	1936
7476	アズワン	1747	1745.25	1693.5	7504	高速	690	665.5	635.5
7524	マルシェ	727	722.75	704.5	7607	進和	930	929.75	895.5
7613	シークス	1190	1159.75	1079.5	7615	京都友禅	991	959.5	940
7702	JMS	261	250.5	255.5	7962	キングジム	643	639.5	608
8074	ユアサ商	132	131.75	124.5	8130	サンゲツ	2159	2101.25	2007
8174	日ガス	1302	1222	1202.5	8207	テンアライド	273	268.75	261
8276	平和堂	1080	1068.25	1038	8346	東邦銀	265	258.5	227
8361	大垣銀	284	282.25	267	8366	滋賀銀	506	496.25	481
8382	中国銀	1095	1070.5	1029.5	8392	大分銀	261	245.25	238.5
8411	みずほ	129	128	122	8425	興銀リース	1995	1944.5	1879
8519	ポケットC	324	321.75	304.5	8566	リコーリース	1891	1873	1799.5
8601	大和証G	314	313	300.5	8729	SONYFH	1426	1376.5	1285.5
8766	東京海上	2185	2095.5	2037.5	8864	空港施設	375	373.5	357
8933	NTT都市	65300	63625	60450	9001	東武	421	418.75	377.5
9010	富士急	488	482.75	457	9021	JR西	3375	3346.25	3253.5
9066	日新	206	205	202	9310	トランスシテ	285	271	261
9324	安田倉	529	510.75	483	9368	キムラユニテ	743	723.75	705
9513	Jパワー	2176	2126.75	2047	9536	西部ガス	219	214.25	200.5
9601	松竹	778	758.25	694.5	9728	日本管財	1510	1480.25	1430.5
9790	福井コンピ	419	405.75	389	9932	杉本商事	779	761.25	746.5
9956	ハロー	1339	1306.75	1159.5	9962	ミスミG	1977	1869	1865.5

雲抜け銘柄

株式会社フィスコ

雲下抜け銘柄（東証1部）

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
2659	サンエー	3060	3097.5	3072.5	8278	フジ	1736	1807.75	1746.5

先物手口コメント（週間累計）

10月15日～10月19日

■週間の上昇は、バレンタイン緩和と並ぶ430円

先週の225先物は週間ベースで430円とバレンタイン緩和（2月13日から17日）と並ぶ今年最大の上昇となった。週初は、為替がやや円高に振れたことで7月26日以来となる8500円台割れの場面が見られたものの、中国の貿易統計を受けて、中国景気減速懸念が一步後退。指数インパクトの大きいソフトバンク<9984>の下落が重しとなったが、指数は切り返す動きを見せた。

その後も、米国株高やスペイン債務問題の進展による為替の円安など、外部環境の改善が進んだことで投資家心理が好転。また、月末30日の日銀金融政策決定会合での追加金融緩和実施への期待感が高まったことから買い戻しが進んだ。18日（木）には9000円台に到達。週末は9000円到達による達成感から反落が警戒されたものの、押し目を狙う動きは活発でプラス圏で取引を終了。10月のオプションSQ算出日の12日から6営業日続伸（6月27日から7月4日以来）となった。

■海外勢買い、国内勢売りと先々週とは逆の構図に

225先物の手口では、メрилが買い筆頭で、これにドイツ証券、JPモルガン、ゴールドマンと海外勢が続いた。一方、売り筆頭はモルガンSで、大和、三菱UFJ、野村、みずほ証券と国内勢が売り方に回り、先々週とは逆の構図となった。ただ、売り買いの筆頭はともに2000枚台の傾きに留まっており、ビックプレイヤーが指数を押し上げるといった動きは観測されなかった。

TOPIX先物に関しては、225先物同様、メрилが買い筆頭となり、これに大和、クレディ・スイス、Nエッジ、JPモルガンが続いた。一方、売り筆頭は野村で、BNPパリバ、モルガンS、ソシエテ、Aアムロが続く格好に。メрил、大和が週を通して買い越したのに対して、野村、BNPパリバは週を通して売り越し。

■NT倍率（先物）の縮小傾向は一服

指数インパクトの大きいソフトバンク、ファーストリテイの急落が影響して先々週縮小したNT倍率（先物）は、11.85倍レベルで下げ渋る展開に。外部環境の改善を好感した景気敏感株の上昇や、急落したソフトバンクが急反発を見せたことなどから、225先物がTOPIX先物に対して強含む展開となった。なお、16日（火）に野村のNTショートと思われる手口が見られたほかは、NTに絡んだ目立った売買は観測されなかった。

■為替に絡んだ仕掛的な売りを警戒

テクニカル面では、マドが3つ空いた上昇「三空」が示現したことで、週末の下落を想定する市場関係者が多かったが、売り一巡後は大口買い（1000枚）が入るなど買いの強さが確認できる結果となった。225先物の建玉が9月4日以来の水準（31.5万枚）まで積み上がっていることから、買戻しだけではなく新規資金が入っているのではないかと指摘する声も浮上。ただ、先週末のNY市場では企業決算が嫌気されてNYダウが200ドル超の急落。為替市場ではユーロ・円も円高に振れたことで225ナイト・セッションは日中終値比110円安の8880円で取引を終了した。

こうした動きを受けて、さすがに週初は反落でのスタートとなる公算が大きい。売り一巡後は先週末に見られたような押し目を狙う動きが入るかが注目だが、Nエッジ、クレディ・スイス、UBSなど欧州勢の動向が気になる。先週の指数上昇局面では、目立った傾きは観測されていない。為替に連動したアルゴリズムトレードも円安局面ではプログラミングされていないのか、一気に走るような動きは見られなかった。

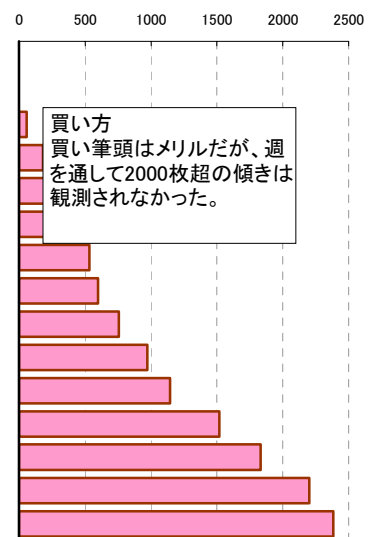
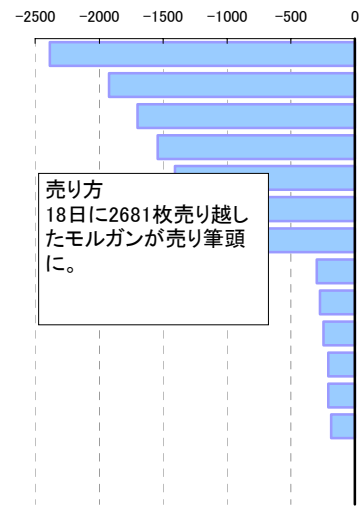
となれば、為替の円安基調が円高に転じた瞬間、為替に絡んだアルゴリズムトレードが再開する可能性もありそうだ。短期的な上昇による過熱感や、9000円台到達による達成感など売りが入りやすいタイミングとなっていることで、今週は仕掛的な下への動きを警戒したい。

日経平均先物手口情報

株式会社フィスコ

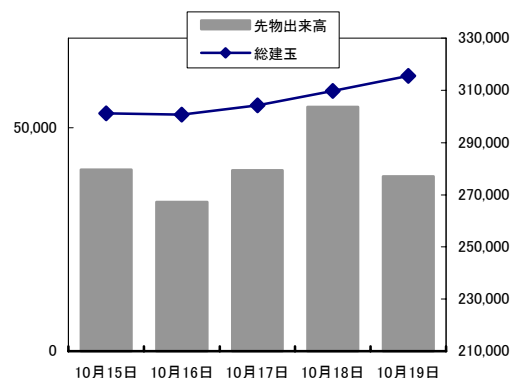
日経平均先物手口 (期近) 週間累計上位 15 社 (売り買い差し引き)
(期近) 月 火 水 木 金 週間 (単位:枚)

証券会社	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	週間累計	推定建玉
モルガンS	1371	-955	-351	-2681	232	-2384	-2160
大和		-436	138	-1220	-406	-1924	-8799
三菱UFJ	-629	769		-929	-913	-1702	-26051
野村	-42	1804	-1357	474	-2421	-1542	9924
みずほ証券	459		-554	-1314		-1409	-1185
立花	-260		-570			-830	-1150
BNPパリバ		796	-778	-1284	542	-724	25602
SBI	233	-244	294	-46	-534	-297	-39
松井	232	-465	169	75	-284	-273	-892
楽天	37	-131	-152	58	-57	-245	-458
パークレイ	-10	158	-453	-244	342	-207	3796
カブドット	-63	-202	-26	708	-624	-207	431
クレディS		-875	-1264	1257	696	-186	2082
インブロー						0	0
東海東京						0	0
?						?	?
ソシエテ						0	-13990
HSBC						0	-5736
日産セン	-359	-383	248	380	172	58	-188
Gクリック	123	187	123	24	-274	183	-326
岡三	337	131	820	-93	-992	203	788
フェニックス		420				420	190
ABNアムロC	-198	241	35	743	-288	533	-2994
マネックス	83	-79	565	651	-623	597	1133
シティG		-975	1	1545	184	755	-456
NエッジJ	-84	-274	1067	-202	466	973	6339
UBS	103	73	276	-945	1637	1144	-2006
GS	-916	1155	306	491	482	1518	15909
JPモルガン	-577	-656		1344	1720	1831	11844
ドイツ	236		1071	104	789	2200	-14439
メリル	437	-697	623	1849	172	2384	7123



(期近) 月 火 水 木 金

日経225	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
先物出来高	40,644	33,396	40,454	54,560	39,121
総建玉	301,161	300,651	304,199	309,767	315,537
建玉前日比	+3,594	-510	+3,548	+5,568	+5,770
始値	8,540	8,650	8,770	8,880	8,960
高値	8,610	8,710	8,850	9,000	9,030
安値	8,490	8,640	8,760	8,870	8,940
終値	8,590	8,710	8,810	8,980	8,990
前日比	+30	+120	+100	+170	+10



※各取引所より発表される売り買い上位 20 社のデータをもとに、売り買いの差し引き週間累計の上位順に表示してあるため、日々ベースで上位となっている証券会社でも表示されていないケースがあります。また日々発表される手口は 20 位以下が未発表であるため、差し引きが実際とは異なる(大きく傾いて表示される)場合があります。尚スプレッド、立会外及びSGXでの手口は含んでいません。推定建玉残は週一回(週初)各取引所より発表される建玉残に日々の売り買い差し引き枚数を加減算した推計値となっています。

TOPIX 先物手口情報

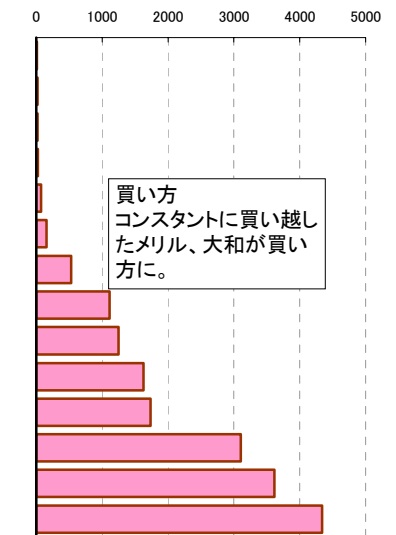
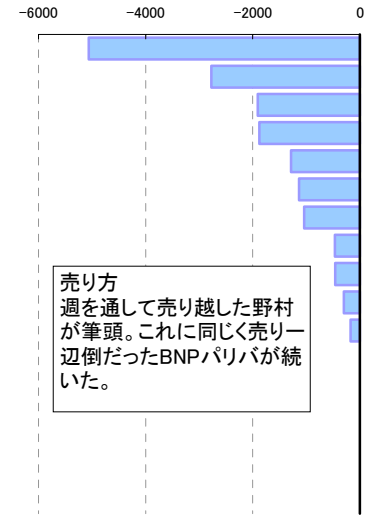
2012年10月22日号

株式会社フィスコ

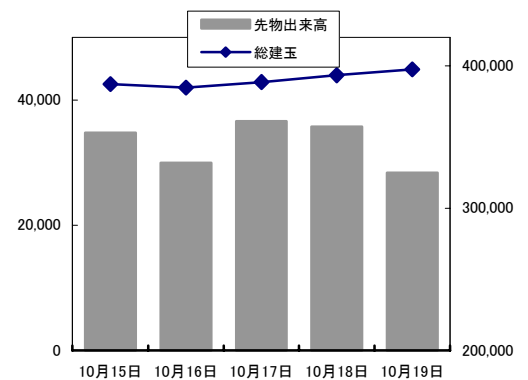
TOPIX 先物手口 (期近)

週間累計上位 15 社 (売り買い差し引き)

(期近)	月	火	水	木	金	週間	(単位:枚)
証券会社	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	週間累計	推定建玉
野村	-361	-1465	-839	-2085	-309	-5059	5086
BNPパリバ	-277	-983	-185	-744	-582	-2771	-9593
モルガンS	-188	728	-784	-16	-1645	-1905	4705
ソシエテ	-372		-552	-523	-432	-1879	-3113
ABNアムロC	-50	-150	-661	-541	120	-1282	-1338
シティG		-559	-577			-1136	5436
三菱UFJ			834	-724	-1148	-1038	-5423
光世			-468			-468	-405
パークレイ	55	159	-198	-117	-358	-459	7182
UBS	-529	-103	267	-439	505	-299	8088
ドイツ	508	-1153	-385	432	427	-171	-18120
立花						0	-110
インブロー						0	0
HSBC						0	1261
SMBC日興						0	-4132
}						}	}
SBI						0	22
むさし		2	-2	-1	10	9	9
アーク	2			-5	21	18	48
水戸				17	3	20	20
カブドット		24				24	24
安藤	1	-98	2	-2	168	71	108
日産セン	69	-63	95	18	38	157	157
岡三	6	2	472	-1	52	531	531
みずほ証券	-156	-63	773	159	399	1112	-2260
GS	-704	1400	59	307	187	1249	6004
JPモルガン	-272	77	-8	968	861	1626	4594
NエッジJ	-441	905	362	910	-1	1735	58
クレディS	-473	-166	325	1835	1583	3104	-12881
大和	1297	440	980	382	515	3614	2950
メリル	1849	1333	683	469	4	4338	15312



(期近)	月	火	水	木	金
TOPIX	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
先物出来高	34,778	30,011	36,636	35,776	28,404
総建玉	387,263	384,848	388,795	393,383	397,518
建玉前日比	-3,438	-2,415	+3,947	+4,588	+4,135
始値	716.5	727.5	738.5	746.0	749.5
高値	725.0	734.0	743.5	754.5	755.5
安値	714.0	726.5	736.5	745.0	749.0
終値	722.5	734.0	739.5	752.0	752.0
前日比	+2.5	+11.5	+5.5	+12.5	+0.0



※各取引所より発表される売り買い上位 20 社のデータをもとに、売り買いの差し引き週間累計の上位順に表示してあるため、日々ベースで上位となっている証券会社でも表示されていない場合があります。また日々発表される手口は 20 位以下が未発表であるため、差し引きが実際とは異なる(大きく傾いて表示される)場合があります。尚スプレッド、立会外及びSGXでの手口は含んでいません。推定建玉残は週一回(週初)各取引所より発表される建玉残に日々の売り買い差し引き枚数を加減算した推計値となっています。

投信スケジュール

2012年10月22日号

株式会社フィスコ

「野村高配当インフラ関連株プレミアム（通貨選択型）」

野村アセットマネジメントは24日に、「野村高配当インフラ関連株プレミアム（通貨選択型）」を設定する。世界各国のインフラ関連企業の株式および米国の金融商品取引所に上場されているMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）等を実質的な主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目指す。

銘柄の選定にあたっては、相対的に予想配当利回りの高い銘柄を中心に投資。配当利回りの観点から着目するインフラ関連企業として、有料道路・空港・港湾・通信網・送配電網・鉄道・水道・パイプラインなどのインフラ資産を所有・運営する企業としている。世界高配当インフラ株の指数構成における業種比較では7月末現在で、石油・ガス・消費燃料が47.7%、総合公共事業が23.1%、電力8.6%、運送インフラ8.2%、ガス5.4%、その他業種6.9%となっている。

日付	ファンド名	形態	委託会社	主な販売会社	募集額(億円)
10/22	DIAM 米国リート・インカムプラス	F.O.F.	DIAMアセットマネジメント	水戸証券	当初500 継続5000
米国の不動産投資信託（リート）とオプション取引を組み合わせた「米国リートカバードコール戦略」により、中長期的な信託財産の成長を目指す。原則として、外貨建資産に対しては為替ヘッジを行わない。毎月分配を行うことをめざす。					
10/24	中国A株オープン	ファミリーファンド	岡三アセットマネジメント	岡三証券	当初100 継続500
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に中国経済の発展で恩恵を受けるとされる中国A株上場市場の株式を中心に投資を行うことで、投資信託財産の成長を目指す。投資に当たっては、利益成長やバリュエーションからみて、中長期的に株価の上昇が見込まれる銘柄を選定し、ポートフォリオを構築する。					
10/24	野村高配当インフラ関連株プレミアム （円コース）毎月分配型 （円コース）年2回決算型 （通貨セレクトコース）毎月分配型 （通貨セレクトコース）年2回決算型	F.O.F.	野村アセットマネジメント	野村証券	当初2000 継続10000
世界各国のインフラ関連企業の株式、および米国の金融商品取引所に上場されているMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）等を実質的な主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とする。カナダの金融商品取引所に上場されているインカム・トラストにも実質的に投資する場合がある。					
10/26	投資のコンシェルジュ	ファミリーファンド	DIAMアセットマネジメント	-	当初0.5 継続5000
国内外の各資産に分散投資することにより、信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行う。国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券に、マザーファンドを通じて実質的に投資する。					
10/26	クルーズコントロール	ファミリーファンド	DIAMアセットマネジメント	-	当初0.5 継続5000
国内外の各資産に分散投資することにより、信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行う。国内外の株式および公社債に、マザーファンドを通じて実質的に投資する。					
10/26	ハイグレード・オセアニア・ボンド・オープン・フレックスヘッジ （毎月決算型）	ファミリーファンド	大和証券投資信託委託	-	当初0.1 継続10000
オーストラリア・ドル建ておよびニュージーランド・ドル建ての債券などに投資する。債権などの格付けは、取得時において基本的にAA格相当以上とする。					

★単位型

※株式投資と関連のあるファンドのみ。F.O.F.はファンドオブファンズ。

公募売出动向

2012年10月22日号

株式会社フィスコ

コード	銘柄名	主幹事 発表日	公募株数(株) 売出株数(株)		OA売出株数(株) [※]	株式総数比 [※]
			価格決定期間		受渡日	発行価格(円)
9795	ステップ	大和証券	1,930,000	0	270,000	14.4%
		10/03	10/15~10/18		10/26	710
8029	ルック	SMBC日興	3,500,000	0	525,000	11.5%
		10/04	10/15~10/18		10/23	373
3662	エイチーム	大和証券	170,000	1,100,000	190,000	15.9%
		10/16	10/31~11/05		-	-
3657	ポールHD	大和証券	440,000	440,000	132,000	23.8%
		10/16	10/24~10/29		11/06	-

※OA 売出株数は、オーバーアロットメントによる売出株数

※株式総数比は、(公募株数+売出株数+OAによる売出株数) ÷ 発行済株式数

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社大阪証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ

Market

展 望

Weekly Market Research Report

発行所 株式会社フィスコ
発行人 狩野 仁志
編集人 フィスコ株式チーム

■お問い合わせ■

〒107-0062

東京都港区南青山5-4-30

CoSTUME NATIONAL Aoyama Complex 2F

株式会社フィスコ 営業開発部

電話: 03-5774-2440

E-mail: eigyo@fisco.co.jp